平成10年度熊谷市埋蔵文化財調査報告書

稲荷東遺跡

1999

埼玉県熊谷市教育委員会

平成10年度熊谷市埋蔵文化財調査報告書

稲荷東遺跡

1999

埼玉県熊谷市教育委員会

序

私たちの郷土、熊谷市には、私たちの祖先が営々と築いてきた、文化の証である埋蔵文化財をはじめとする貴重な文化財が豊かに保存・伝承されてきております。こうした文化財は、地域の歴史・文化を今日に伝えるばかりでなく、地域の個性の一部とも言うべきものであり、今日における熊谷市の発展やその過程を雄弁に物語っていると申せましょう。ともすると、私たちは安全で快適な生活の実現に性急なあまり、私たちを育んできた地域の文化遺産のありがたさを見失いがちですが、私たちは、地域全体でこうした文化遺産を継承し、次世代へと伝え、さらに豊かな熊谷市の形成のための礎としていかなければならないと考えているところでございます。

さて、稲荷東遺跡は熊谷市大字東別府字稲荷東に所在する中世の遺跡でありますが、熊谷市の準用河川であります新奈良川の改修工事に伴う事前の確認調査で発見されました。熊谷市では、新堀・別府・奈良・玉井地区の西部流域の雨水排水の確保による住民生活の安全と快適な暮らしのために、どうしてもこの河川改修工事が不可欠なものと考え計画してきました。そこで、熊谷市教育委員会では関係機関等と遺跡の保護と保存の方法につき慎重に協議を重ねてまいりましたが、この計画の性格上、記録保存の措置もやむを得ないとの結論に達し、急遽発掘調査を実施いたしたところでございます。

本書は、平成９年12月から平成10年１月に実施された発掘調査の成果をまとめたものでございます。

本書を、埋蔵文化財保護に関する資料として、また学術研究の基礎資料、あるいは学校教育や社会教育の参考資料として広くご活用いただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、発掘調査から本書の刊行にいたるまでご指導、ご協力をいただきました埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課をはじめ、熊谷市建設部河川課、並びに地元関係者各位に厚くお礼申し上げます。

平成 11 年３月

熊谷市教育委員会
教育長 **飯塚誠一郎**

例　　言

1　本書は、埼玉県熊谷市大字東別府字稲荷東1032－1他に所在する稲荷東遺跡（埼玉県遺跡番号59－113）の発掘調査報告書である。

2　本調査は、熊谷市準用河川新奈良川改修事業に伴う事前記録保存のための発掘調査であり、熊谷市教育委員会が実施した。

3　本事業の組織は、1章のとおりである。

4　発掘調査期間は、平成9年12月11日～平成10年1月31日である。
　整理・報告書作成期間は、平成11年1月26日～平成11年3月31日である。

5　発掘調査の担当は、熊谷市教育委員会金子正之・吉野　健が、本書の執筆・編集は、吉野　健が行った。また、社会教育課職員の支援を受けた。

6　発掘調査及び遺物の写真撮影は、吉野　健が行った。

7　出土遺物は、熊谷市教育委員会で保管している。

8　発掘調査及び整理作業の参加者は、以下のとおりである（敬称略、五十音順）。
天沼由起子、池上八重子、木村のぶ子、小林シズ、佐久間ともみ、中山達也、牧野常子、松岡祐二、山本綾子

9　本書の作成のあたり、下記の方々及び機関からご教示、ご協力を賜った。記して感謝いたします。
（五十音順）
大里郡市文化財担当者会、埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課

凡　例

1　本文中、遺構の表記記号は、次のとおりである。

　ＳＫ・・・土坑、Ｐ・・・ピット、ＳＤ・・・溝跡

2　各遺構の番号は、整理作業の段階で変更した。ただし、一部は発掘調査時に付したものを用いた。

　新旧対照表については、第１表に示した。

3　土層断面図中の表記記号は、次のとおりである。

　Ｓ・・・川原石、Ｐ・・・土器、Ｆ・・・鉄滓

4　遺構挿図の縮尺は、次のとおりである。

　遺構全測図・・・１／200、土坑・ピット・溝跡・・・１／60

5　遺構土層断面図及びエレベーション図のポイントの標高は、すべて 32.000m に統一した。

6　遺物実測図の縮尺は、すべて１／４である。

7　遺物実測図の中で、中心線はすべて実線で示し、遺物観察表にできる限り残存率で示した。

8　遺物観察表の凡例は、次のとおりである。

　法量の単位は、cm である。

　色調は、『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修 1997 年版）に照らし最も近似した色相を示した。

第１表　遺構番号新旧対照表（左：新番号、右：旧番号）

土坑														溝跡	
		5	92	21	16	37	66	53	94	69	46	85	38		
		6	32	22	78	38	103	54	54	70	98	86	102		
1	1	7	5	23	3	39	65	55	60	71	97	87	34	1	1
2	2	8	4	24	104	40	63	56	53	72	42	88	29		
3	3	9	4	25	2	41	62	57	6	73	96	89	27		
4	4	10	82	26	1	42	61	58	9	74	49	90	26		
5	7	11	68	27	99	43	100	59	7	75	50	91	24		
6	6	12	105	28	72	44	58	60	8	76	48	92	23		
7	5	13	76	29	71	45	57	61	12	77	51	93	22		
		14	77	30	70	46	59	62	80	78	52	94	19		
ピット		15	74	31	69	47	55	63	79	79	40	95	20		
		16	73	32	67	48	28	64	13	80	41	96	17		
1	86	17	95	33	101	49	25	65	44	81	37	97	18		
2	88	18	75	34	31	50	24	66	43	82	39				
3	89	19	11	35	30	51	56	67	47	83	36				
4	33	20	10	36	64	52	21	68	45	84	35				

目　次

序……Ⅰ
例　言……Ⅱ
凡　例……Ⅲ
目　次……Ⅳ
挿図目次……Ⅴ
表 目 次……Ⅴ
図版目次……Ⅴ

Ⅰ　発掘調査の概要……1
　1　調査に至る経過……1
　2　発掘調査・報告書作成の経過……1
　3　発掘調査、整理・報告書刊行の組織……2
Ⅱ　遺跡の立地と環境……3
Ⅲ　遺跡の概要……8
　1　調査の方法……8
　2　検出された遺構と遺物……8
Ⅳ　遺構と遺物……8
　1　土坑……8
　2　ピット……13
　3　溝跡……30
　4　表土剥ぎ一括遺物……31
Ⅴ　調査のまとめ……32

挿　図　目　次

第１図　埼玉県の地形……2
第２図　周辺遺跡分布図……4
第３図　稲荷東遺跡位置図……9
第４図　稲荷東遺跡全測図……10
第５図　第１・２号土坑、第24・62・63号ピット……12
第６図　第３～７号土坑、第32号ピット……13
第７図　土坑出土遺物……14
第８図　第１・４～14号ピット……16
第９図　第15～23・25～30・58号ピット……18
第10図　第31・33～53・91号ピット……19
第11図　第54～57・59～61・64～69号ピット……21
第12図　第70～82・85～87号ピット……22
第13図　第83・84・88～90・92～97号ピット……24
第14図　ピット出土遺物……25
第15図　第1号溝跡、第２・３号ピットと出土遺物……30
第16図　表土剥ぎ一括遺物……31

表　目　次

第１表　遺構新旧対照表……Ⅲ
第２表　土坑出土遺物観察表……14
第３表　ピット出土遺物観察表……25
第４表　ピット一覧表……26
第５表　第１号溝跡出土遺物観察表……31
第６表　表土剥ぎ一括遺物観察表……31

図　版　目　次

図版１　稲荷東遺跡西側全景（北東から）
稲荷東遺跡東側全景（北東から）
稲荷東遺跡西側遺構（南東から）
稲荷東遺跡東側遺構（南西から）
稲荷東遺跡東側遺構（北から）
稲荷東遺跡東南側遺構（西から）

図版２　第１号土坑
第１号土坑土層断面（A－A'）
第１号土坑集石状況
第２号土坑、第24・62・63号ピット
第３号土坑、第19・20・57～61・64号ピット
第７号土坑片岩出土状況

図版３　第４～６号土坑、第 14 ～ 16・30 ～ 34
・36 ～ 47・52 ～ 56 号ピット
第 17・18 号ピット
第 23 号ピット
第 25 号ピット
第 26 号ピット
第 43・44 号ピット
図版４　第 46 号ピット
第 93 号ピット
第 97 号ピット
第１号溝跡（北から）
第１号溝跡（南から）
作業風景
図版５　第１号土坑出土遺物
第２号土坑出土遺物
第３号土坑出土遺物
第 10 号ピット出土遺物
第 17 号ピット出土遺物
第 95 号ピット出土遺物
図版６　第 89 号ピット出土遺物
第１号溝跡出土遺物
表土剥ぎ一括遺物

Ⅰ　発掘調査の概要

1　調査に至る経過

平成９年８月22日付け熊河発第115号で、熊谷市長から熊谷市教育委員会教育長あてに、熊谷市の準用河川新奈良川改修工事予定地における埋蔵文化財の所在及び取扱いについて協議があった。

工事予定地は、北側に周知の埋蔵文化財包蔵地「別府条里遺跡（№59－49）」があり、付近に別府古墳群が所在していることから、熊谷市長あてに、当該地は遺跡の存在する可能性が非常に高い地域のため事前に埋蔵文化財の詳しい所在を確認するための試掘調査を必要とする旨、回答した。

そして、その回答をうけて再び熊谷市長から平成９年９月５日付け熊河発第132号で埋蔵文化財の所在を確認するための試掘調査依頼をうけた。そこで平成９年10月７～８日に試掘調査を実施したところ、12本の試掘トレンチのうちの１本で、ピット及び土坑とともに焼土・炭化物が検出されたため、平成９年10月13日付け熊教社収第513号で熊谷市長あてに下記のとおり回答した。

遺跡の存在する可能性がある区域は、現状で保存するか、又は埋蔵文化財に影響を及ぼさない方法での開発が望ましいです。

やむを得ず埋蔵文化財に影響を及ぼす場合は、文化財保護法第57条の３の規定により事前に文化庁へ埋蔵文化財発掘通知を提出し、記録保存のための発掘調査が必要です。

その後、保存策についての協議を重ねたが、工事計画の変更は不可能であると判断されたため、記録保存の措置を講ずることとなった。

発掘調査は、平成９年12月11日に熊谷市・熊谷市教育委員会間で新奈良川改修事業地内の埋蔵文化財に関する協定書を締結し実施することとなった。

発掘調査に先立ち、熊谷市長から文化財保護法第57条の３第１項の規定に基づく埋蔵文化財発掘の通知が平成９年12月５日付け熊河発第193号で提出され、埼玉県教育委員会教育長から平成10年１月16日付け教文３－627号で発掘調査の実施の指示通知があった。そして、熊谷市教育委員会教育長は、文化財保護法第98条の２第１項の規定に基づく埋蔵文化財発掘調査の報告を平成９年12月22日付け熊教社発第788号で提出した。発掘調査は、平成９年12月11日から開始した。

2　発掘調査・報告書作成の経過

（1）発掘調査

稲荷東遺跡の発掘調査は、平成９年12月11日から平成10年１月31日にかけて行われた。調査面積は、遺跡面積400㎡の内河川改修工事によって破壊をうける200㎡であった。遺跡の範囲内で土上げ敷きの部分は破壊を受けずに保護されるため調査の対象から外した。

平成９年12月11日に遺構確認面まで重機による表土剥ぎを行い、同時に遺構精査作業を行った。その際、多数のピット等が存在することが確認され、順次遺構の調査に着手した。

平成10年１月７日には、調査のすべてを終了し、１月31日までには埋め戻しを行い現状に復した。

（2）整理・報告書作成作業

整理作業は、平成10年中に遺物の洗浄・注記・復元・遺構の図面整理作業を終え、平成11年１月26日

から本格的に作業を進めた。１～２月に遺物の実測・拓本取り・写真撮影と並行して、遺構の最終的な図面整理、遺構・遺物図面のトレース、遺構図・遺物図版組を行い、２月下旬には、原稿執筆、割付をして、報告書の印刷に入り、校正を行った後、３月31日に本報告書を刊行した。

3　発掘調査、整理・報告書刊行の組織

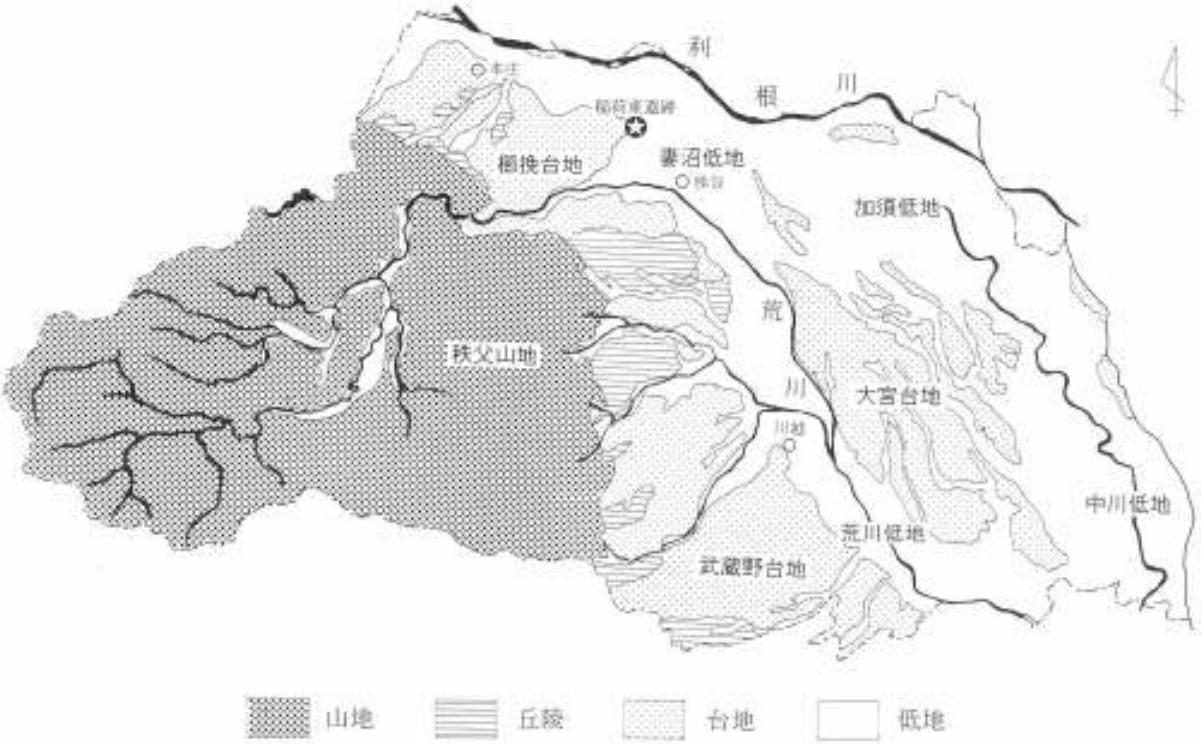
主体者　熊谷市教育委員会

（１）発掘調査（平成９年度）

教育長	岡嶋一夫
教育次長	田島三雄
社会教育課課長	大島常雄
副参事	鈴木敏昭
課長補佐	翠田晴夫
係長	金子正之
主任	権田宣行
主任	渡邊　操
主任	吉野　健

（２）整理・報告書刊行（平成10年度）

教育長	岡嶋一夫（H10.10.6 まで）
	飯塚誠一郎（H10.10.9 より）
教育次長	坂巻　篤
社会教育課課長	氏家保男
副参事	鈴木敏昭
課長補佐	北　俊明
主幹兼係長	金子正之
主任	寺社下博
主任	渡邊　操
主任	吉野　健
主事	松田　哲
発掘調査員	佐々木健策
発掘調査員	市川康弘
発掘調査員	秋本太郎



第１図　埼玉県の地形

Ⅱ　遺跡の立地と環境

稲荷東遺跡は、熊谷市大字東別府字稲荷東1032－1番地他に所在し、ＪＲ高崎線籠原駅の北東約2.0km、荒川から北へ約5.0km、利根川から南へ約6.5kmに位置する。

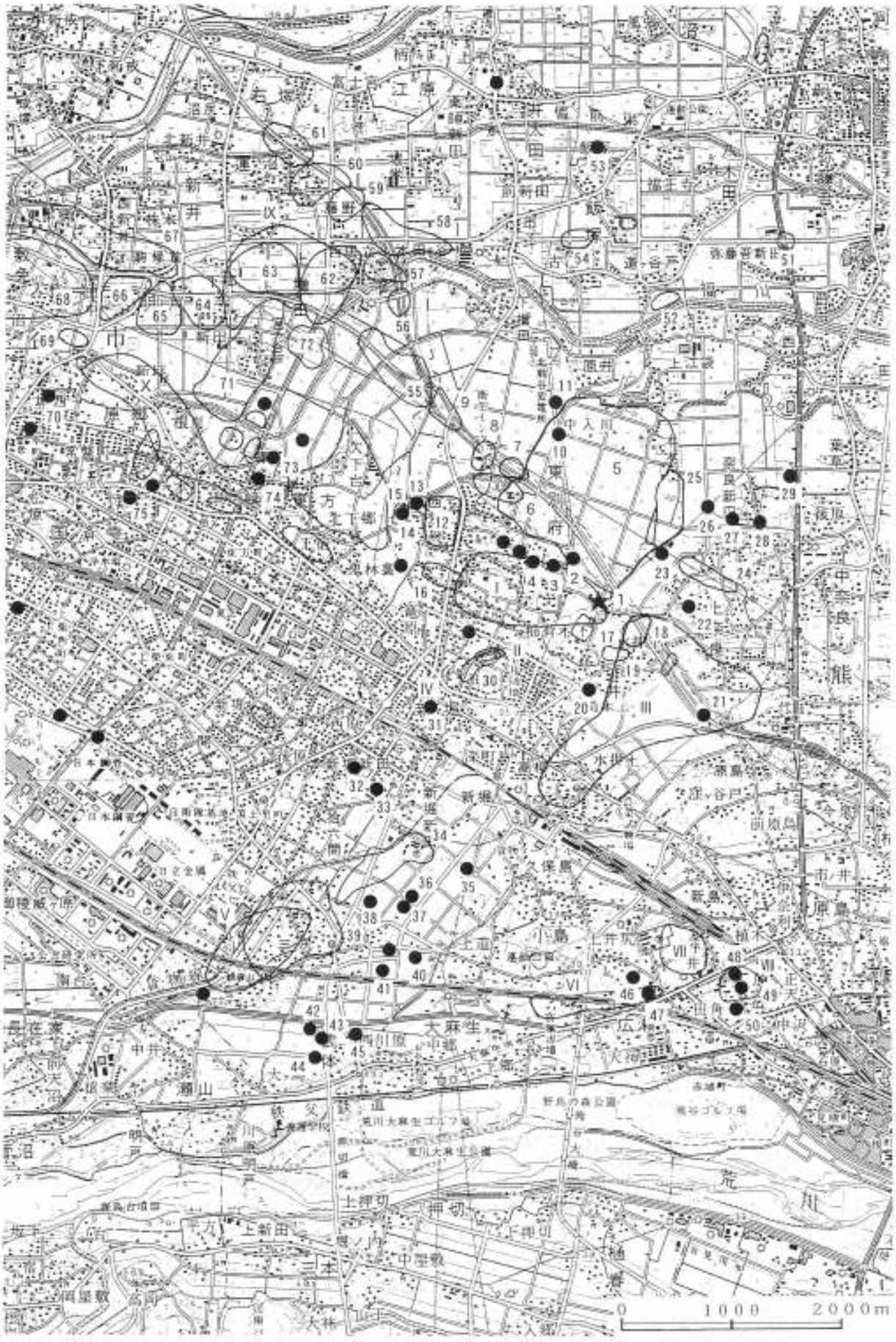
稲荷東遺跡の所在する東別府地区は、熊谷市の北西部にあたり、櫛挽台地の北端及びその北と北東に展開する妻沼低地にある。櫛挽台地は、寄居町末野付近を扇頂に、荒川の両岸に広がる洪積扇状地である荒川扇状地の荒川左岸側の一帯が浸食されてできたものである。そして、本遺跡が立地する妻沼低地は、利根川及びその支流により形成された沖積地であり、熊谷市の大半を覆っている沖積扇状地の新荒川扇状地（熊谷扇状地）と自然堤防が広がる地区に分けられる。本遺跡は、その新荒川扇状地上、標高約30mに立地し更地となっていた。遺跡を覆っていた土は、関東造盆地運動による地盤の沈降及び荒川、利根川等の度重なる河川氾濫の影響で、おおよそ１mの厚さをもっていた。

次に、本遺跡を中心に櫛挽台地及び妻沼低地における歴史的環境の一端を簡単に見ていきたいと思う。

まず、旧石器時代から縄文時代であるが、この時期の遺跡の発見例はきわめて少ない状況である。旧石器時代で知られているのは、平安時代の住居跡の覆土中から出土した籠原裏遺跡の黒曜石製の尖頭器が唯一の例である。縄文時代になると、櫛挽台地上さらには妻沼低地上にも発見例が少々増える。本遺跡のすぐ北西に位置する寺東遺跡では前期関山式土器が、三ヶ尻遺跡内の林遺跡でも前期黒浜式期の集落が発見されている。そして、同じく三ヶ尻遺跡内の天王遺跡では中期から後期の集落が発見されており、妻沼低地には石田遺跡も存在する。後期に至っては、前述の寺東遺跡で称名寺式期の埋甕を伴う土坑等が発見されており、豊富な土器群が検出された入川遺跡や深町遺跡も知られる。また、深谷市に目を転じてみると、自然堤防上で発掘調査された中期後葉から後期の遺跡が存在する。本郷前東遺跡・原遺跡・上敷免遺跡・前遺跡等である。このことから、熊谷市だけに限らず深谷市においても妻沼低地の自然堤防上に生活の場を展開していったことが窺える。

一方、縄文時代晩期から弥生時代前半にかけての熊谷市内の発見例はほとんどなく、縄文時代晩期の深谷市の妻沼低地では、前述の遺跡を継承した位置に再び集落が営まれたようである。

次に熊谷市内において本格的展開の知られる遺跡は、現段階では弥生時代中期まで待つことになる。須和田式期の再葬墓が16基（うち３基は県埋蔵文化財調査事業団平成２年度調査）発見された横間栗遺跡、同じく須和田式期の壺が発見されている三ヶ尻遺跡内の上古遺跡が知られる。再葬墓群や土器を伴う土坑が検出されている遺跡は、深谷市上敷免遺跡・明戸東遺跡、妻沼町飯塚遺跡・飯塚南遺跡が知られる。上敷免遺跡では包含層から県内初の前期遠賀川式土器が出土している。地図には示していないが、北島遺跡・平戸遺跡・前中西遺跡も同時期の遺跡として挙げられ、北島遺跡でも再葬墓や土壙墓群が、前中西遺跡では再葬墓と方形周溝墓の２タイプの葬送形態が近接し発見されていて特異である。また、行田市小敷田遺跡では関東地方で最も古い段階の須和田式期の方形周溝墓が検出されている。一方、同時期の集落や住居跡が検出されている遺跡としては、関下遺跡・飯塚南遺跡・池上遺跡（地図中未掲載）が存在する。中期後半のものは深谷市宮ヶ谷戸遺跡・清水上遺跡で中部高地系櫛描文土器が出土している。後期には妻沼低地の各地に遺跡が見られ始め、深谷市明戸東遺跡・妻沼町弥藤吾新田遺跡・中条条里遺跡内の東沢遺跡・行田市池守遺跡（後者２遺跡は地図中未掲載）が存在する。明戸東遺跡・東沢遺



第２図　周辺遺跡分布図

跡・池守遺跡では吉ヶ谷式土器が、弥藤吾新田遺跡では南関東系の弥生町式土器が出土している。

古墳時代に入ると、古墳は台地・自然堤防等の微高地に形成され、集落は台地ばかりでなく低地帯の自然堤防上にも営まれるようになり、次第に遺跡数も増加傾向にある。前期では、妻沼低地に大きく遺跡が展開している。横間栗遺跡・根絡遺跡・別府条里遺跡・一本木前遺跡・中耕地遺跡・東沢遺跡・北島遺跡・天神遺跡（後半３遺跡は地図中未掲載）、深谷市清水上遺跡・明戸東遺跡・東川端遺跡・宮ヶ谷戸遺跡・本郷前東遺跡・上敷免遺跡、弥藤吾新田遺跡、小敷田遺跡等がある。横間栗遺跡では住居跡が３軒、根絡遺跡では住居跡が13軒、北島遺跡では21軒検出されており、根絡遺跡、北島遺跡さらには弥藤吾新田遺跡等は比較的大規模な集落と推定されている。小敷田遺跡では畿内や東海地方等の外来系の土器が多数出土しており、東沢遺跡とあわせて河川跡から鍬・鋤をはじめとした多量の木製農具を出土した遺跡として知られている。また、最新の情報では北島遺跡からも当該期の木製農具が出土していると聞いている。墓域の存在としては、上敷免遺跡・東川端遺跡・小敷田遺跡等で方形周溝墓群が検出されていて、各々９基・５基・17基である。特に東川端遺跡第２号方形周溝墓からは、パレススタイルの大型壺が出土している。

中期の様相は、他の時期と比べて不明な点が多いが、集落が大規模に展開していくのは中期後半以降となるようである。北島遺跡・中条遺跡内の権現山遺跡・常光院東遺跡（後者２遺跡は地図中未掲載）等で遺構・遺物が検出されている。北島遺跡では住居跡から須恵器の甑を模倣した土師器小型壺が、権現山遺跡では出現期の竈をもつ住居跡が検出されている。また、集落内の祭祀は東川端遺跡に確認され

第２図掲載遺跡一覧表

１稲荷東遺跡　２寺東遺跡　３別府氏館跡　４別府城跡　５別府条里遺跡　６石田遺跡　７関下遺跡　８横間栗遺跡　９根絡遺跡　10深町遺跡　11入川遺跡　12西別府館跡　13西方遺跡　14西別府廃寺　15西別府祭祀遺跡　16原遺跡　17玉井陣屋跡　18新ヶ谷戸遺跡　19水押下遺跡　20稲荷木上遺跡　21下河原上遺跡　22奈良氏館跡　23天神下遺跡　24土用ヶ谷戸遺跡　25一本木前遺跡　26中耕地遺跡　27西通遺跡　28東通遺跡　29横塚山古墳　30在家遺跡　31龍原裏遺跡　32拾六間後遺跡　33堂西遺跡　34樋の上遺跡　35東遺跡　36黒沢館跡　37黒沢遺跡　38若松遺跡　39三ヶ尻遺跡　40庚申塚遺跡　41松原遺跡　42社裏北遺跡　43社裏遺跡　44社裏南遺跡　45臺遺跡　46高根遺跡　47不二ノ腰遺跡　48天神前遺跡　49兵部裏屋敷跡　50御蔵場跡　51弥藤吾新田遺跡　52道ヶ谷戸遺跡　53飯塚遺跡　54飯塚南遺跡　55清水上遺跡　56前遺跡　57居立遺跡　58城北遺跡　59柳町遺跡　60砂田遺跡　61ウツギ内遺跡　62原遺跡　63明戸東遺跡　64新田裏遺跡　65新屋敷東遺跡　66本郷前東遺跡　67上敷免北遺跡　68上敷免遺跡　69八日市遺跡　70幡羅太郎館跡　71宮ヶ谷戸堀ノ内遺跡　72東川端遺跡　73城下遺跡　74東方城跡　75片鼻和城跡　Ⅰ別府古墳群　Ⅱ在家古墳群　Ⅲ玉井古墳群　Ⅳ龍原裏古墳群　Ⅴ三ヶ尻古墳群　Ⅵ広瀬古墳群　Ⅶ坪井古墳群　Ⅷ石原古墳群　Ⅸ上増田古墳群　Ⅹ木の本古墳群

ていて，遺物が集中分布している谷にむかう斜面部で剣形の滑石製模造品が検出されている。また，古墳に目を転じてみると，数こそ少ないが，妻沼低地の福川の自然堤防上に横塚山古墳が存在する。これは，B種横刷毛の埴輪をもつ前方後円墳（後円部は一部欠損）である。

そして，後期になると遺跡は爆発的な増加をみる。台地ばかりでなく自然堤防上にもさらに積極的に進出を図っていったようである。集落は，古墳時代後期から奈良・平安時代へと継続して展開する大規模なものが市内では目立つようになる。櫛挽台地上及び新荒川扇状地上では，樋の上遺跡で古墳時代後期から平安時代の住居跡が90軒以上検出され，このうち古墳時代後期のものは14軒以上を数える。また同遺跡内の上辻・下辻遺跡でも後期から平安時代の住居跡が50軒以上検出された。三ヶ尻遺跡内の天王遺跡や三尻中学校遺跡でも後期の集落が検出されている。一方妻沼低地の自然堤防上では，一本木前遺跡・天神下遺跡・根絡遺跡・原遺跡・東川端遺跡・新屋敷東遺跡・本郷前東遺跡・上敷免遺跡・砂田遺跡・柳町遺跡・城北遺跡・居立遺跡・飯塚南遺跡・妻沼町道ヶ谷戸遺跡・北島遺跡・小敷田遺跡等が存在する。現在調査中の一本木前遺跡でも後期を中心に奈良・平安時代の住居跡が60軒以上検出されており，当該期の祭祀跡も発見され，折り重なるように土師器坏等が出土し，それとともに臼玉も出土している。城北遺跡では住居跡157軒が検出され，住居跡内から人，馬・牛等の獣骨が多数出土し，特に人骨が住居跡から検出された例はあまり知られていない。

一方，古墳を見てみると群を形成して築造されているのがわかる。櫛挽台地上の別府古墳群・在家古墳群・籠原裏古墳群・三ヶ尻古墳群・深谷市木の本古墳群，新荒川扇状地上の玉井古墳群・広瀬古墳群・坪井古墳群・石原古墳群・肥塚古墳群，妻沼低地上の深谷市上増田古墳群・中条古墳群・上之古墳群等が分布する。これらは概ね6世紀から7世紀ないしは8世紀初頭にかけて形成された古墳群である。本遺跡の西に分布する別府古墳群は，農夫の埴輪を出土している。また，本遺跡でもこの古墳群のものと考えられる円筒埴輪片が出土している。籠原裏古墳群は川原石乱石積の胴張型横穴式石室を有する古墳群であるが，7世紀末の築造と考えられる八角形の墳形をもつ古墳の存在が知られており，終末期の古墳の様相，さらには後述する8世紀初頭創建の西別府廃寺という初期寺院との関係においても見逃すことのできない発見である。三ヶ尻古墳群は，前方後円墳の二子山古墳を盟主墳とする100基以上の古墳で構成される大古墳群であるが，現在でも61基の所在が確認されている（消滅・半壊を含める）。玉井古墳群に含まれると考えられる新ヶ谷戸遺跡1号墳でも川原石使用の胴張型横穴式石室が発掘調査によって発見されている。また，広瀬古墳群中の宮塚古墳は，上円下方墳という特異な墳形を今に残し，熊谷市唯一の国指定史跡として知られている。

古墳時代後半に自然堤防上の微高地に形成された集落の多くは，増減はするものの奈良・平安時代へと継続されていく。新屋敷東遺跡・明戸東遺跡は，竪穴式住居を主体に少量の掘立柱建物で構成された集落である。他に上敷免遺跡・柳町遺跡・東川端遺跡・清水上遺跡・根絡遺跡等が挙げられる。奈良時代には，この地域も律令制体制に組み込まれていき，別府条里遺跡等が見られる。このころの中心的遺跡は櫛挽台地上に見られ，この地域には幡羅郡が設置され，台地上に「原郷」の地名が残り，前述のとおり西別府廃寺が存在する。二度の発掘調査によって寺域を区画する大溝，伽藍配置は不明であるが基壇跡，瓦溜まり状遺構等とともに軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦が多量に出土し，瓦は8世紀初頭から9世紀後半のものまで確認されており，県内でも滑川町寺谷廃寺に次いで最も古い建立の寺院の一つとし

て認識されている。また、その北西約 200 mの湯殿神社裏の湧水箇所には西別府祭祀遺跡が所在し、奈良時代を中心に古墳時代後期から平安時代までの土師器・須恵器と伴に馬形・櫛形・勾玉形・有孔円板形・有線円板形・剣形等の滑石製模造品が約 160 点発見されており、県内でも類例がほとんどない水辺の祭祀の実態を考える上で貴重な遺跡である。西別府廃寺は、この祭祀遺跡との関係を考慮に入れれば、幡羅郡の郡寺的な機能を有すると考えることもできるし、周辺の古墳群を形成した有力氏族との関係も想定できる。他に奈良・平安時代の集落遺跡としては、在家遺跡・籠原裏遺跡・拾六間後遺跡・堂西遺跡・飯塚南遺跡・新ヶ谷戸遺跡・北島遺跡がある。特に北島遺跡は 7 世紀から12世紀の大規模な集落で、多数の住居跡とともに大規模な掘立柱建物跡・道路状遺構・河川跡等興味深い発見がなされている。最近、一本木前遺跡の11世紀初頭の住居跡から瑞花鴛鴦八稜鏡が出土し、県内初の住居跡出土例として注目されている。

平安時代末から中世になると、武蔵七党やその他の在地武士団の館跡が散在するようになる。別府城跡・別府氏館跡・西別府館跡・玉井陣屋跡・奈良氏館跡・黒沢館跡・兵部裏屋敷、深谷市東方城跡・庁鼻和城跡・幡羅太郎館跡等であるが、いずれの居館も実態は不明である。その中で残りの良いものの中に、本遺跡の東に所在する別府城跡がある。別府氏の居館で方形の敷地に土塁の一部と空堀を良く残している。また、三ヶ尻地区に所在する黒沢館跡は、発掘調査によって出枡形に張り出して台形に全周する堀・土塁の一部・2 箇所の虎口・柱穴跡・土壙・集石遺構等が検出され、渡辺崋山の記した『訪瓢録』に残る「黒沢屋敷」の記載と遺構が合致した貴重な例である。遺物としては、14～15世紀の年号が記載された板石塔婆や15～16世紀の瀬戸・美濃焼の陶器・内耳土器・土師質土器等が出土している。北側に所在する樋の上遺跡でも、15～16世紀の土壙・集石遺構とともに比較的深くコーナーをもつ溝跡が検出されており、館跡の一部である可能性が考えられている。墓域としては、三ヶ尻遺跡内の天王遺跡・樋の上遺跡・若松遺跡・社裏北遺跡・社裏遺跡・社裏南遺跡・西方遺跡等が挙げられ、櫛挽台地及びそれを仰ぐ新荒川扇状地上に分布する。樋の上遺跡・若松遺跡では土葬墓・火葬墓等が検出されており、内耳土器・土師質土器・白磁、青磁、常滑、瀬戸等の陶磁器・板石塔婆・石臼等が出土している。また、黒沢館跡及び樋の上遺跡の南西に位置する社裏北遺跡・社裏遺跡・社裏南遺跡では土壙墓群が、台地上の天王遺跡でも墓地群が、さらに台地の縁辺部に位置する西別府地区の西方遺跡では中世から近世にかけての 150 基以上もの土壙墓が幾重にも重なり合って検出されている。しかし、中世以降の歴史的実態はまだまだ情報不足で、今後の調査成果によるところが多く、本遺跡を含めて情報の蓄積に期待するところであろう。

Ⅲ 遺跡の概要

1 調査の方法

発掘調査の方法は、１辺５ｍのグリッド方式を用いて行い、調査区全体を網羅できる様に、北西隅をＡ－１として南へ１・２・３・・・、東へＡ・Ｂ・Ｃ・・・とし、Ａラインは北から南へＡ－１・Ａ－２・Ａ－３・・・と呼称した。Ｂライン以東もＡラインと同様に呼称し、グリッド設定を行った。

発掘調査は、重機による遺構確認面までの表土剥ぎを行った後、上記のグリッド設定を行うため任意に杭を落として方位磁石により南北軸を割り出しグリッドを設定した。また、標高は仮ベンチマークを設けこれを０ｍとして測量を行った。なお、報告書作成時には、国家座標Ⅸ系に基づく基準点に変換し直し、標高も実際の標高に計算し直した。表土剥ぎ後は、人力による遺構確認のための精査を実施し、確認された各遺構は各々手掘りを行った。遺物は必要に応じて写真撮影後、遺構ごとに一括して慎重に取り上げた。遺構も遺物同様必要に応じて写真撮影した後、実測を行った。そして最後に遺構全体の写真撮影を行い、全測図の実測を行った。

2 検出された遺構と遺物

本調査によって検出された遺構は、南西隅部分を除いて調査区全体にほぼまんべんなく広がっていた。中世の土坑７基（内１基は井戸状の遺構）、ピット97基、溝跡１条の遺構、土師質土器皿・陶器・石製品・円筒埴輪・鉄滓等の遺物が検出され、コンテナ１箱分の出土量であった。遺物量はかなり少なく、いずれの遺物も具体的な時期を特定するに足るものではなく、破片資料ばかりであった。また土坑内から出土したものが主体で、ピット等からの出土は少なかった。陶器は、常滑系の甕が主体であった。

Ⅳ 遺構と遺物

1 土坑

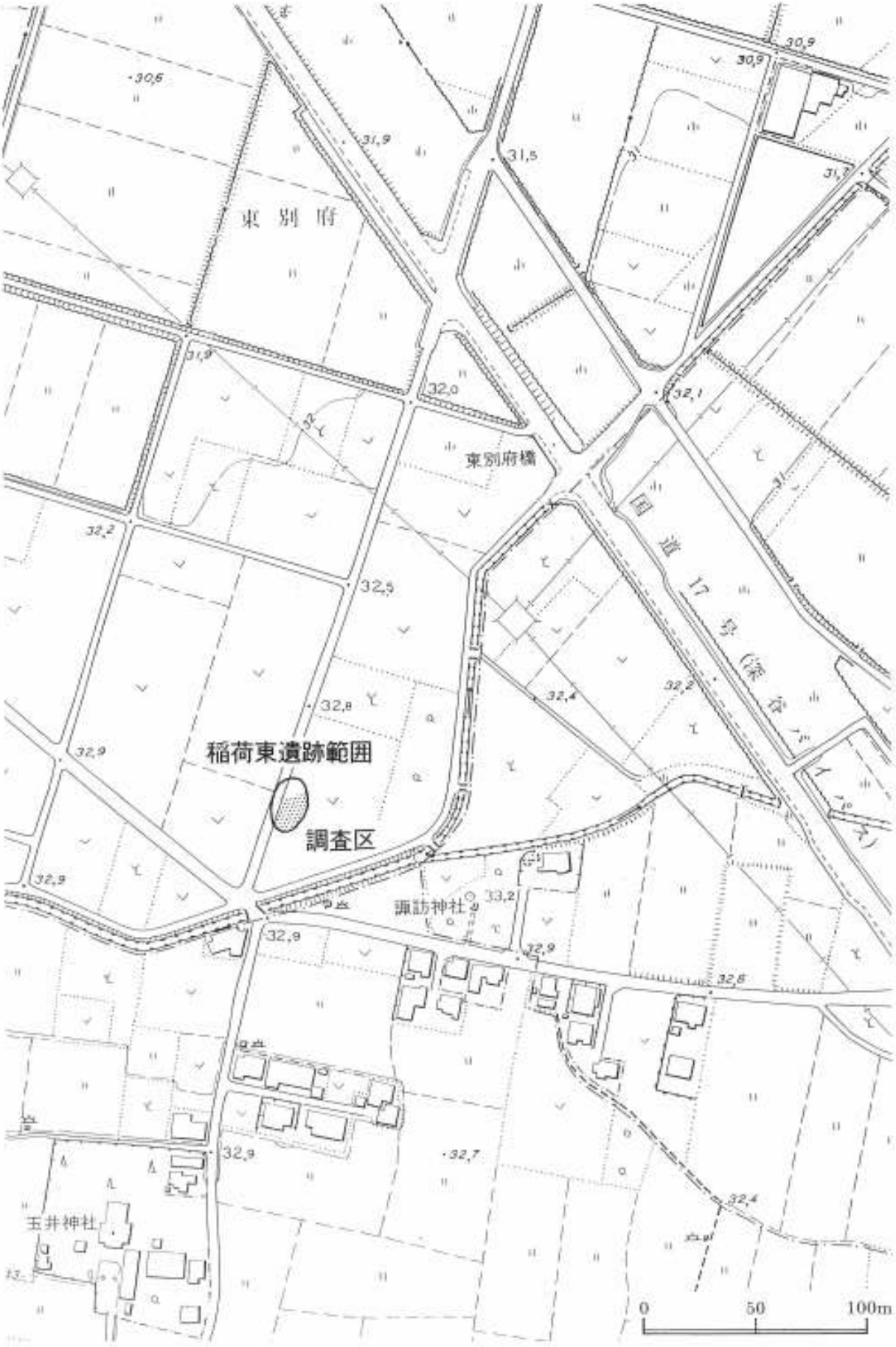
土坑は総数で７基確認された。第１号土坑と第２号土坑、第４号土坑・第５号土坑・第６号土坑は、各々隣接して検出され、第４号土坑と第５号土坑は重複関係にあった。第３号土坑と第７号土坑は、それぞれ単独で検出された。第３～７号土坑の深さは、確認面から10cm前後から30cmの間に収まるが、第１・２号土坑についてはそれぞれ115cm・75cmと他に比べるとかなり深いものであった。また、第１・２号土坑は位置関係は勿論だが、円形の平面プラン、鉄滓を多量に出土するなどの共通する様相を示していた。

第１号土坑は、土坑と認識するより井戸と認識する方が良いとも考えられる。さらに覆土上層で焼土・炭化物と伴に常滑産の甕片と多量の鉄滓が出土し、さらに一段深くなる箇所の中間のレベルで拳大以上の大きさの礫が集中して検出されるなど特異な様相を示していた。

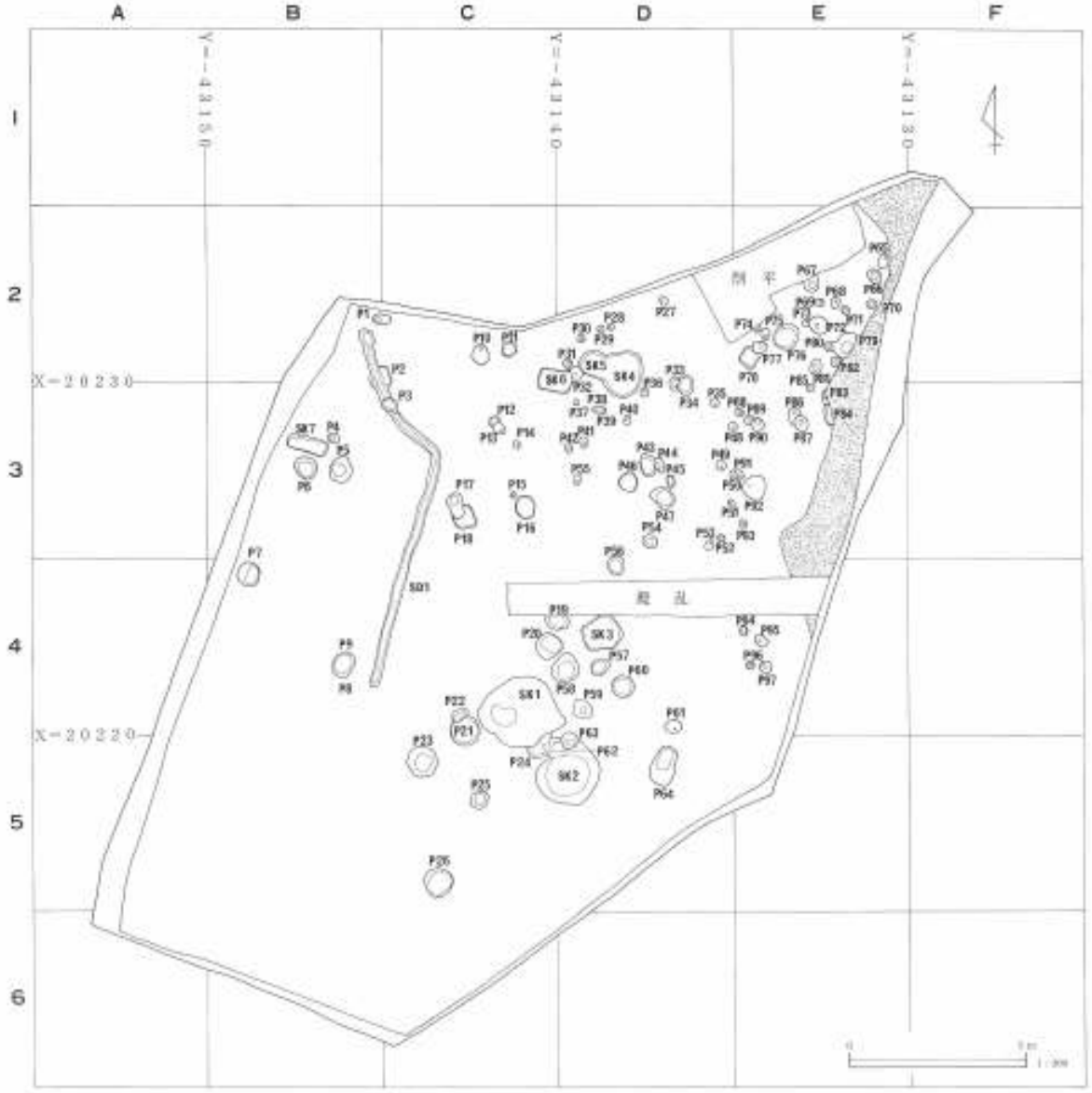
以下各土坑ごとに詳細を記載する。

第１号土坑（第５図・第７図）

Ｃ－４・５グリッドから検出した。遺構は第24号ピットと重複していた。



第３図　稲荷東遺跡位置図



第４図　稲荷東遺跡全測図

平面プランはほぼ円形で、規模は、長軸220cm、短軸190cm、深さ155cmであった。

出土遺物は、常滑産の甕片、土師質土器皿、陶器甕片、鉄滓1430 gが出土した。

前述したが覆土の上層で焼土・炭化物とともに、常滑産の甕片等と多量の鉄滓を検出した。また、中間層で大きな礫を多量に集中して検出し、遺構は砂礫層まで掘り込まれていて、井戸状を呈している。鉄滓が多量に出土していることから、鍛冶関連の遺構とも考えられるが、確証に乏しい。

時期は、中世と考えられる。

第2号土坑（第5図・第7図）

C・D－5グリッドから検出した。遺構は第62号ピットに壊されている。

平面プランはほぼ円形で、規模は、長軸187cm、短軸160cm、深さ75cmであった。

断面形は袋状を呈していた。

出土遺物は、陶器甕片、鉄滓2120 gが出土した。

覆土は、床面付近に炭化物層が帯状に確認された。

第1号土坑と同様に多量の鉄滓が出土したことから、第1号土坑とは有機的関係にあると考えられる。

時期は、中世と考えられる。

第3号土坑（第6図・第7図）

D－4グリッドから検出した。

平面プランは隅丸長方形状で、規模は、長軸110cm、短軸80cm、深さ12cmであった。

出土遺物は、常滑産の甕片が出土した。

時期は、中世と考えられる。

第4号土坑（第6図）

D－2・3グリッドから検出した。遺構は第5号土坑と重複していたが、新旧関係は明らかにできなかった。

平面プランは楕円形と推定され、規模は、長軸134cm、短軸は不明、深さ10cmであった。

出土遺物は、陶器破片が出土したが、図示可能な遺物ではなかった。

第5号土坑（第6図）

D－2グリッドから検出した。遺構は、第4号土坑と重複していたが、前述のとおり新旧関係は明らかにできなかった。

平面プランは楕円形と推定され、規模は、長軸は不明、短軸75cm、深さ11cmであった。

出土遺物は、検出できなかった。

第6号土坑（第6図）

C・D－2・3グリッドから検出した。遺構は第32号ピットと重複していたが、新旧関係は明らかにできなかった。

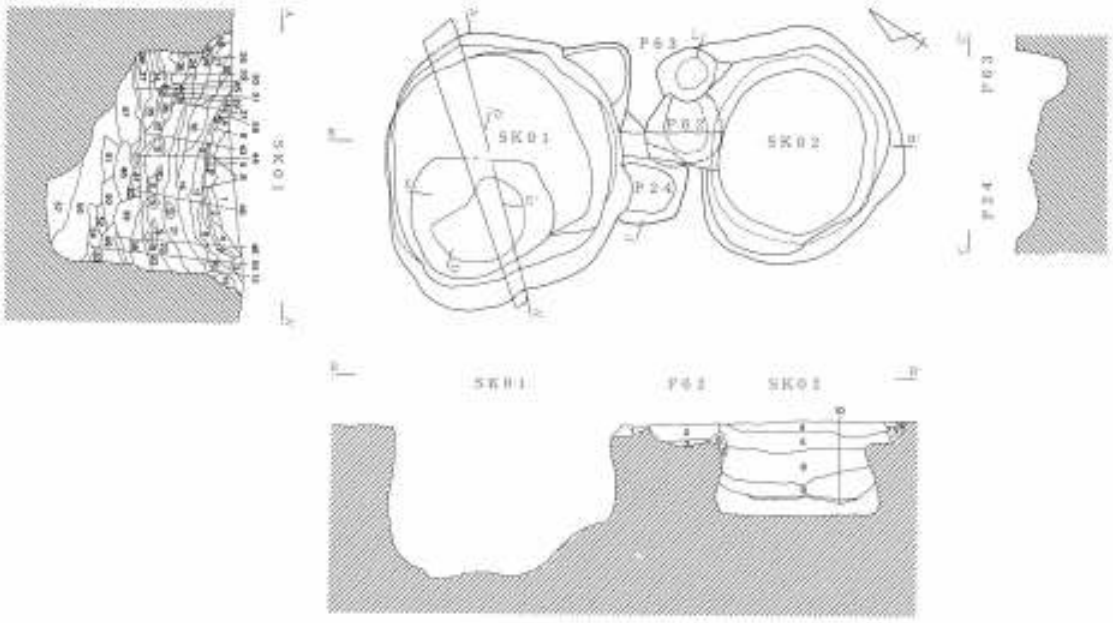
平面プランは長方形で、規模は、長軸94cm、短軸66cm、深さ27cmであった。

出土遺物は、検出できなかった。

第7号土坑（第6図）

B－3グリッドから検出した。

第1・2号土坑・第24・62・63号ピット



サブトレンチ箇所

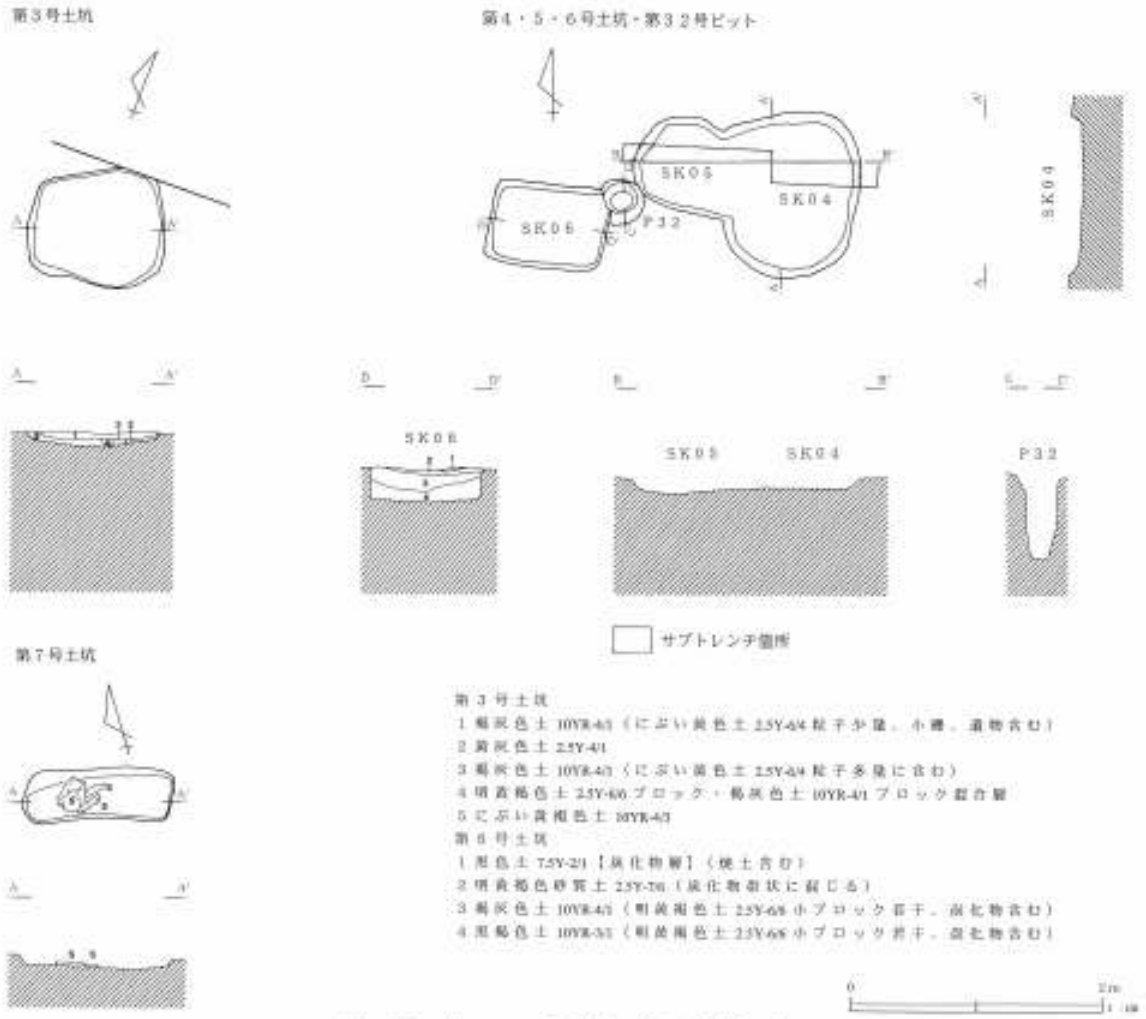
第1号土坑（A－A'）

1 にぶい黄色砂礫土 2.5Y-6/4（小石非常に多く含み軟質、炭化物含む）
2 灰オリーブ粘砂土 5Y-5/2
3 黄褐色土 2.5Y-5/3（にぶい黄色土 2.5Y-6/4 粒子若干含む）
4 灰オリーブ砂質土 5Y-6/2（炭化物若干、遺物含む）
5 暗灰黄色土 2.5Y-5/2（焼土・炭化物含む）
6 暗灰黄色土 2.5Y-5/2（灰白色土 7.5Y-6/1 ブロック多量に含む）
7 暗灰黄色土 2.5Y-5/2（炭化物・焼土若干含む）
8 褐灰色土 7.5YR-4/1（炭化物・焼土多量に含む）
9 灰オリーブ色土 7.5Y-5/2（灰白色土 10Y-7/2 粒子少量、炭化物・焼土若干）
10 暗灰黄色土 2.5Y-4/2（にぶい黄色土 2.5Y-6/4 粒子少量、炭化物・焼土若干含む）
11 オリーブ灰色土 10Y-5/2（オリーブ灰色土 10Y-6/2 ブロック・にぶい黄色土 2.5Y-6/4 ブロック若干、炭化物・焼土少量含む）
12 にぶい黄色土 2.5Y-6/4（第1層土粒子混入）
13 オリーブ褐色土 2.5Y-4/6
14 黒色土 N-2/（炭化物層）（にぶい黄色土 2.5Y-6/4 小ブロック・焼土少量含む）
15 暗灰黄土 2.5Y-5/2
16 黒褐色土 7.5YR-3/2（浅黄色土 5Y-7/4 粒子若干、にぶい黄色土 2.5Y-6/4 粒子少量、炭化物・焼土若干含む）
17 暗灰黄色土 2.5Y-4/2（にぶい黄色土 2.5Y-6/4 ブロック若干含む）
18 オリーブ褐色土 2.5Y-4/6（にぶい黄色土 2.5Y-6/4 粒子少量、灰黄褐色土 10YR-4/2 混じる）
19 灰オリーブ色土 5Y-4/2
20 黒褐色土 10YR-3/2（炭化物・焼土若干含む）
21 黒褐色土 10YR-3/2（にぶい黄色土 2.5Y-6/4 小ブロック少量、炭化物若干、大礫含む）
22 黄灰色粘質土 2.5Y-5/1（大きい礫多量、小さい礫、遺物含む）
23 暗灰黄色粘質土 2.5Y-5/2（若干砂質、礫・炭化物含む）
24 黒褐色土 10YR-3/2（炭化物若干含む）
25 黄灰色土 2.5Y-4/1（にぶい黄色土 2.5Y-6/4 ブロック若干含む）
26 にぶい黄色土 2.5Y-6/4
27 黒褐色土 2.5Y-3/1（炭化物若干含む）
28 にぶい黄色粘質土 2.5Y-6/3
29 黄灰色土 2.5Y-4/1
30 灰白色土 7.5Y-5/2
31 にぶい黄色粘質土 2.5Y-6/3
32 褐灰色土 10YR-4/1（にぶい黄色土 2.5Y-6/4 粒子多量、炭化物若干含む）
33 黄灰色土 2.5Y-4/1
34 にぶい黄色粘質土 2.5Y-6/3
35 黄灰色粘質土 2.5Y-4/1（にぶい黄色土 2.5Y-6/4 ブロック、小石含む）
36 灰黄色土 2.5Y-6/2
37 黄褐色土 2.5Y-5/4（小石含む）
38 褐灰色土 10YR-4/1（にぶい黄色土 2.5Y-6/4 粒子・ブロック多量に含む）
39 にぶい黄色砂質土 2.5Y-6/3（礫含む）
40 灰色粘質土 7.5Y-5/1
41 黄灰色粘質土 2.5Y-4/1（炭化物・鉄滓含む）
42 黄灰色粘質土 2.5Y-5/1（炭化物少量含む）
43 黄褐色粘質土 2.5Y-5/3（黄灰色土 2.5Y-4/1 混じる）
44 黄灰色土 2.5Y-4/1（にぶい黄色土 2.5Y-6/4 粒子少量含む）
45 黄灰色土 2.5Y-4/1
46 黒褐色粘質土 2.5Y-3/1（小石含む）
47 暗灰黄色粘質土 2.5Y-5/2
48 黒褐色粘質土 2.5Y-3/1
49 黄褐色粘土 2.5Y-5/4
50 黒褐色粘質土 2.5Y-3/1（にぶい黄色粘質土 2.5Y-6/4 粒子若干、炭化物少量含む）
51 灰黄褐色粘質土 10YR-4/2（黒褐色粘質土 2.5Y-3/1 粒子少量混じる）
52 黄褐色粘土 2.5Y-5/3
53 明オリーブ灰色粘質土 5GY-7/1（鉄分含む）
54 暗灰黄色粘土 2.5Y-4/2（黒褐色粘質土 2.5Y-3/1 混じる）
55 オリーブ褐色土 2.5Y-4/3
56 黄褐色粘質土 2.5Y-5/3
57 暗灰黄色粘質土 2.5Y-5/2（黒褐色粘質土 2.5Y-3/1 ブロックごくわずか含む）
58 撹乱

第1・2号土坑、第62ピット（B－B'）

1 黄灰色土 2.5Y-4/1（明黄褐色土 2.5Y-6/6 ブロック、火山灰若干含む）
2 褐灰色土 10YR-4/1（明黄褐色土 2.5Y-6/6 ブロック・粒子少量、炭化物・火山灰若干含む）
3 明灰黄色土 2.5Y-4/1
4 黄灰色土 2.5Y-4/1（若干砂質、礫、焼土・炭化物・火山灰若干、発泡化物質含む）
5 明黄褐色土 2.5Y-6/6（黄灰色土 2.5Y-4/1 粒子・ブロック多量、焼土・炭化物若干含む）
6 にぶい黄色土 2.5Y-6/4
7 灰オリーブ色土 5Y-5/2（鉄滓含む）
8 明黄褐色土 2.5Y-6/6（灰オリーブ色土 5Y-5/3 と黄灰色土 2.5Y-4/1 ブロックが多量に混入した層（焼土・炭化物若干含む）
9 黄褐色土 2.5Y-5/3（しまる、黄灰色土 2.5Y-4/1 ブロックごくわずか含む）
10 オリーブ黒色土 7.5Y-3/1
11 撹乱

第5図　第1・2号土坑、第24・62・63号ピット



第6図　第3～7号土坑、第32号ピット

平面プランは長方形で、規模は、長軸117cm、短軸40cm、深さ8cmであった。

出土遺物は、須恵器坏（末野産）破片が出土したが、図示可能な遺物ではなかった。また、床面直上に敷き詰められたようにまとまって紅れん石片岩が出土した。

2 ピット

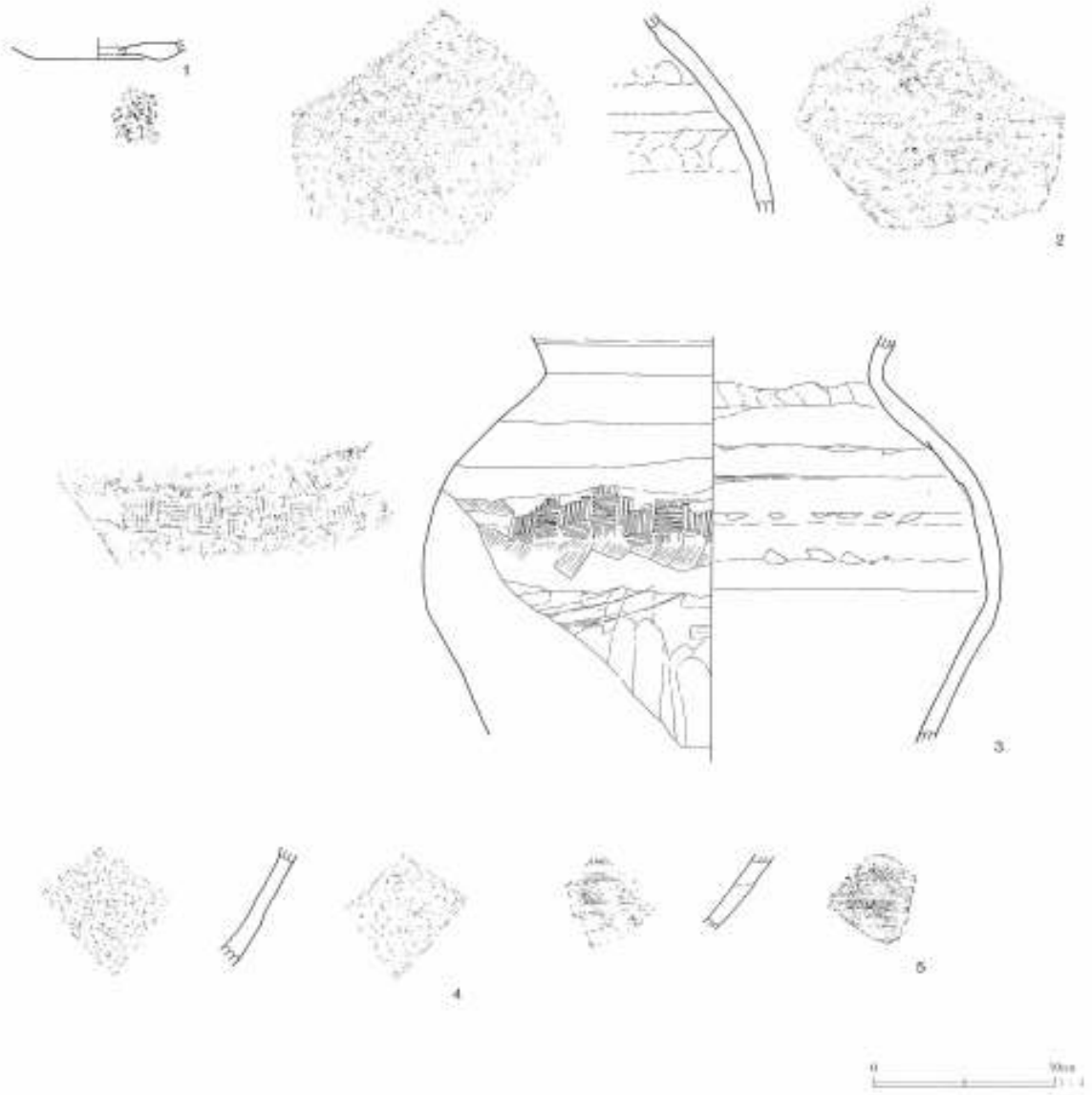
ピットは、総数にして97基検出した。ピットは調査区全体に不規則に検出された。若干並んだ配列で検出したものもあったが、掘立柱建物等と判断できるものはなかった。比較的まとまって検出したピット群も見られるが、全体的に散漫な感じで、規模も大小様々でバラエティーに富んでいた。出土遺物としては、検出されたピットは少なく、概ね中世の所産と考えられる遺物が出土したが、多少にかかわらず鉄滓を出土するものも見られたことが特筆すべきことである。

以下ピットについては、事実記載が必要と考えられるもののみを記載した。事実記載のないピットについては、一覧表を参照されたい。

第1号ピット（第8図）

B・C－2グリッドから検出した。

平面プランは楕円形で、規模は、長軸48cm、短軸30cm、深さ13cmであった。断面形は、二段階の



第７図　土抗出土遺物

第２表　土抗出土遺物観察表（第７図）

番号	出土位置	器　種	法量(cm)	手法，形態の特徴	胎　土	色　調	焼成	残存率	備　考
1	ＳＫ01	土師皿 土器Ⅲ	底径7.0 残存高1.1	ロクロ成形。 内面：ロクロナデ。 底部：回転糸切り。 体部はおそらくやや内湾ぎみに立ち上がる。底部はあげ底ぎみである。	中粒砂、細粒砂、赤褐色粒子、黒色粒子少量含む。	にぶい橙色7.5YR-7/4	普通	底部付近の一部のみ	
2	ＳＫ01	甕	残存高10.9	外面：網目状・ヘラケズリ状のナデあり。 内面：指頭圧痕及び巻状に指ナデツケ痕あり。	雑礫、粗粒砂、中粒砂、赤褐色子、白色粒子、長石含む。	外面：灰色5Y-5/1 内面：灰色7.5Y-5/1	良好	胴部破片	

番号	出土位置	器　種	法量(cm)	手法、形態の特徴	胎　土	色　調	焼成	残存率	備　考
3	ＳＫ01	甕	頸部径 18.9 胴部径 32.0 残存高 22.3	外面：頸部から胴部上半にかけてロクロ状のナデ。 下半の上半は指で押さえた様な圧痕があり，下半はタテ方向のナデ。 胴部の最も張っている箇所のすぐ上部に押印文が帯状に連続して施されている。 内面：頸部の胴部との境には指頭圧痕あり。以下はヨコ指ナデ。 粘土紐のつぎ目痕あり。 口縁部は欠損していて不明。 胴部はやや丸みのある肩から下半が底部へ向かって直線的にのびる。	細礫、粗粒砂，白色礫含む。	外面：橙色5YR-6/6 内面：橙色5YR-7/6 頸部は橙色5YR-6/6	良好	30～40%	常滑産？
4	ＳＫ03	甕	－	内外面に濃緑色釉が一部かかっているのが残存する。	細礫、粗粒砂、中粒砂，白色粒子，長石，小石含む。	外面：暗赤褐色10R-3/2 内面：灰褐色5YR-4/2	良好	破片	常滑産
5	ＳＫ02	鉢	－	ロクロ成形，内外面ともロクロナデ。	細礫，中粒砂、白色粒子、長石含む。	外面：灰色5Y-5/1 内面：灰色N-6/	良好	破片	

掘り込みであった。

出土遺物は、検出できなかった。

第４号ピット（第８図）

Ｂ－３グリッドから検出した。

平面プランは楕円形で、規模は、長軸30cm、短軸25cm、深さ32cm であった。

出土遺物は、土師器の破片が出土したが、図示可能な遺物ではなかった。

第６号ピット（第８図）

Ｂ－３グリッドから検出した。

平面プランは円形で、規模は、長軸64cm、短軸63cm、深さ12cmであった。断面形は、二段階の掘り込みであった。

出土遺物は、検出されなかった。

第７号ピット（第８図）

Ｂ－３グリッドから検出した。

平面プランは隅丸方形状で、規模は、長軸67cm、短軸59cm、深さ17cmであった。断面形は、二段階の掘り込みであった。

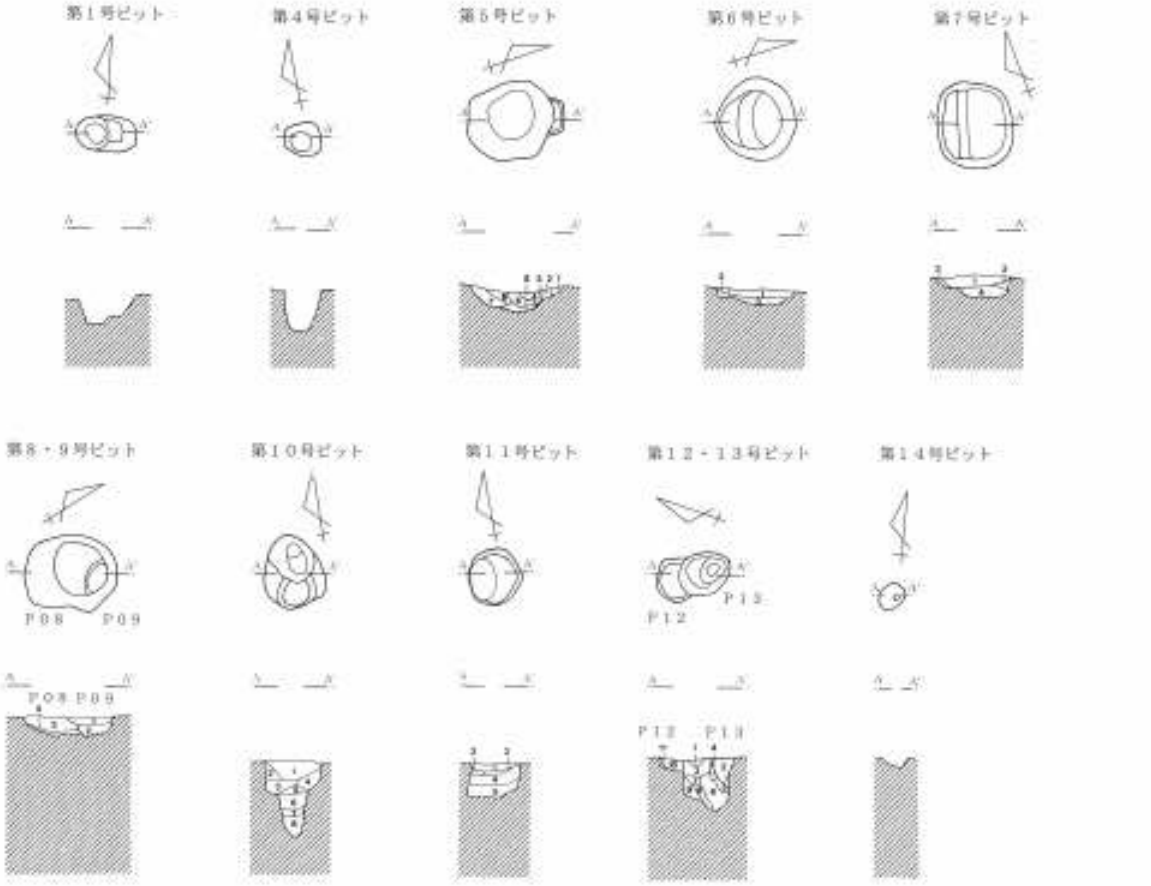
出土遺物は、土師器の破片が出土したが、図示可能な遺物ではなかった。

第８号ピット（第８図）

Ｂ－４グリッドから検出した。遺構は第９号ピットと重複関係にあり、第９号ピットに壊されていた。

平面プランは楕円形で、規模は、長軸は不明、短軸55cm、深さ15cm であった。

出土遺物は、少量の鉄滓が出土した。



第５号ピット
1 灰黄色土 10YR-4/1（にぶい黄色土 2.5Y-6/4 混じる，炭化物，火山灰，礫多量に含む）
2 黒褐色土 2.5Y-3/1（にぶい黄色土 2.5Y-6/4 粒子若干，炭化物含む）
3 暗灰黄色土 2.5Y-5/2（炭化物・焼土含む）
4 オリーブ黒色土 5Y-3/1（にぶい黄色土 2.5Y-6/4 粒子少量，炭化物・焼土含む）
5 黄灰色土 2.5Y-4/1（にぶい黄色土 2.5Y-6/4 粒子・ブロック若干，炭化物・焼土含む）
6 灰黄褐色土 10YR-4/2（明黄褐色土 2.5Y-7/6 粒子若干，炭化物・焼土含む）
7 黒褐色土 10YR-3/2（明黄褐色土 2.5Y-7/6 粒子少量，小石多量に含む）
8 オリーブ黒色土 10Y-3/1（炭化物多量に含む）
第６号ピット
1 褐灰色土 10YR-4/1（明黄褐色土 2.5Y-6/6 小ブロック・粒子，炭化物，火山灰若干含む）
2 黒褐色土 2.5Y-3/1（炭化物・火山灰若干含む）
3 黒褐色土 2.5Y-3/2（明黄褐色土 2.5Y-6/6 粒子少量，火山灰・小石若干含む）
第７号ピット
1 オリーブ黒色土 5Y-3/2（礫多量，炭化物・焼土少量含む）
2 礫層（小さい礫）
3 オリーブ黒色土 5Y-3/1（小石若干含む）
4 暗灰黄色土 2.5Y-4/2（大小の礫少量含む）
第８・９号ピット
1 オリーブ黒色土 5Y-3/2（黄褐色土 2.5Y-5/3 粒子若干，炭化物・鉄分含む）
2 黒褐色土 10YR-3/2（炭化物・焼土，小石若干含む）
3 オリーブ黒色土 5Y-3/1（若干砂質，小さい礫多量に含む）
4 オリーブ褐色土 2.5Y-4/4（小さい礫若干含む）
第１０号ピット
1 暗灰黄色土 2.5Y-4/2（明黄褐色土 2.5Y-7/6 ブロック・粒子非常に多く，炭化物・焼土少量，遺物含む）
2 黄褐色土 2.5Y-5/3（明黄褐色土 2.5Y-7/6 粒子若干含む）
3 灰黄褐色土 10YR-4/2（黒褐色土 2.5Y-3/1 混じる，炭化物含む）
4 暗灰黄色土 2.5Y-4/2（明黄褐色土 2.5Y-7/6 微粒子若干，炭化物含む）
5 暗灰黄色土 2.5Y-5/2（明黄褐色土 2.5Y-7/6 粒子若干含む）
6 オリーブ褐色土 2.5Y-4/3（黄灰色土 2.5Y-4/1 小ブロック若干含む）
7 黄灰色土 2.5Y-6/1（若干砂質感ある）
第１１号ピット
1 黄褐色土 2.5Y-5/3（炭化物・焼土ごくわずか，火山灰少量含む）
2 灰黄褐色土 10YR-4/2（明黄褐色土 2.5Y-7/6 粒子少量含む）
3 暗灰黄色土 2.5Y-4/2（明黄褐色土 2.5Y-7/6 粒子多量，火山灰若干含む）
4 黒褐色土 2.5Y-3/1（明黄褐色土 2.5Y-7/6,6/6 大小ブロック少量，炭化物・焼土少量含む）
5 黒褐色土 10YR-3/1（明黄褐色土 2.5Y-7/6 粒子若干含む）
第１２・１３号ピット
1 褐灰色土 10YR-4/1
2 黄灰色土 2.5Y-4/1（明黄褐色土 2.5Y-7/6 粒子多量に含む）
3 暗灰黄色土 2.5Y-4/2（明黄褐色土 2.5Y-7/6 粒子多量に含む）
4 灰色土 5Y-6/1
5 明黄褐色土 2.5Y-6/6 粒子層
6 暗灰黄色土 2.5Y-4/2（若干砂質）
7 明黄褐色土 2.5Y-6/6
8 明黄褐色土 2.5Y-6/6・黄褐色土 2.5Y-4/1 混合層
9 黄灰色土 2.5Y-4/1（炭化物含む）
10 にぶい黄色土 2.5Y-6/4（褐灰色土 10YR-4/1 混じる）
11 暗灰黄色土 2.5Y-5/2

第８図　第１・４～１４号ピット

第９号ピット（第８図）

Ｂ－４グリッドから検出した。遺構は第８号ピットを壊していた。

平面プランは楕円形で、長軸57cm、短軸は推定36cm、深さは16cmであった。

出土遺物は、土師器坏破片が出土したが図示可能な遺物ではなかった。また、少量の鉄滓が出土した。

第10号ピット（第８図・第14図）

Ｃ－２グリッドから検出した。

平面プランは楕円形で、規模は、長軸58cm、短軸49cm、深さ60cmであった。

断面形は、二段階の掘り込みで２基のピットが重複しているような形状であった。

出土遺物は、陶器の甕破片と少量の鉄滓が出土した。

時期は、中世と考えられる。

第13号ピット（第８図）

Ｃ－３グリッドから検出した。遺構は第12号ピットを壊していた。

平面プランは楕円形で、規模は、長軸42cm、短軸32cm、深さ42cmであった。断面形は、二段階の掘り込みであった。

出土遺物は、土師質土器破片が出土したが図示可能な遺物ではなかった。

第17号ピット（第９図・第14図）

Ｃ－３グリッドから検出した。遺構は第18号ピットと重複していたが、遺構の新旧関係は明らかにできなかった。

平面プランは不整形な楕円形で、規模は、長軸 74cm、短軸 48cm、深さ 47cmであった。断面形は、二段階の掘り込みであった。

出土遺物は、土師質土器皿・土師器破片・少量の鉄滓が出土した。

時期は、中世と考えられる。

第23号ピット（第９図）

Ｃ－５グリッドから検出した。

平面プランは円形で、規模は、長軸88cm、短軸83cm、深さ35cmであった。

出土遺物は、鉄滓が出土し 1420 ｇを量った。

第25号ピット（第９図）

Ｃ－５グリッドから検出した。

平面プランは円形で、規模は、長軸52cm、短軸47cm、深さ15cmであった。

出土遺物は、鉄滓が出土し 2300 ｇを量った。

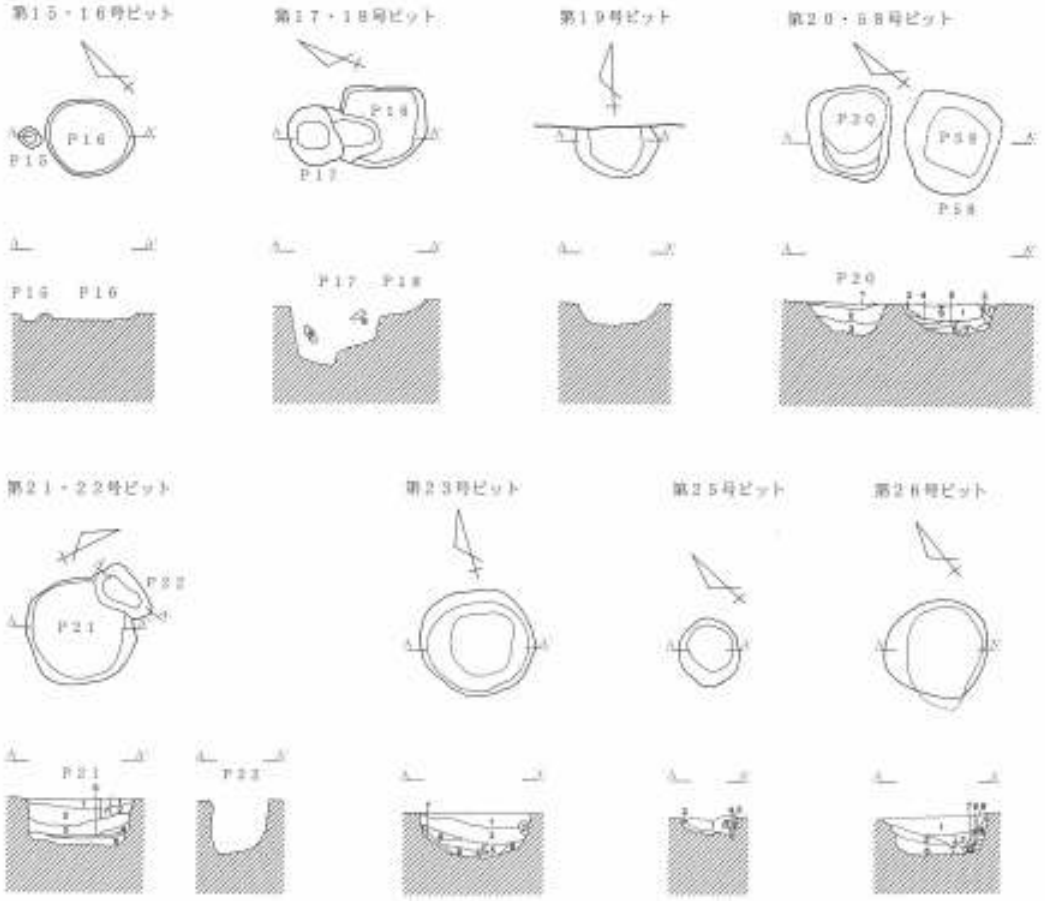
第26号ピット（第９図）

Ｃ－５グリッドから検出した。

平面プランは円形で、規模は、長軸78cm、短軸77cm、深さ30cmであった。断面形は、一部袋状になるものであった。

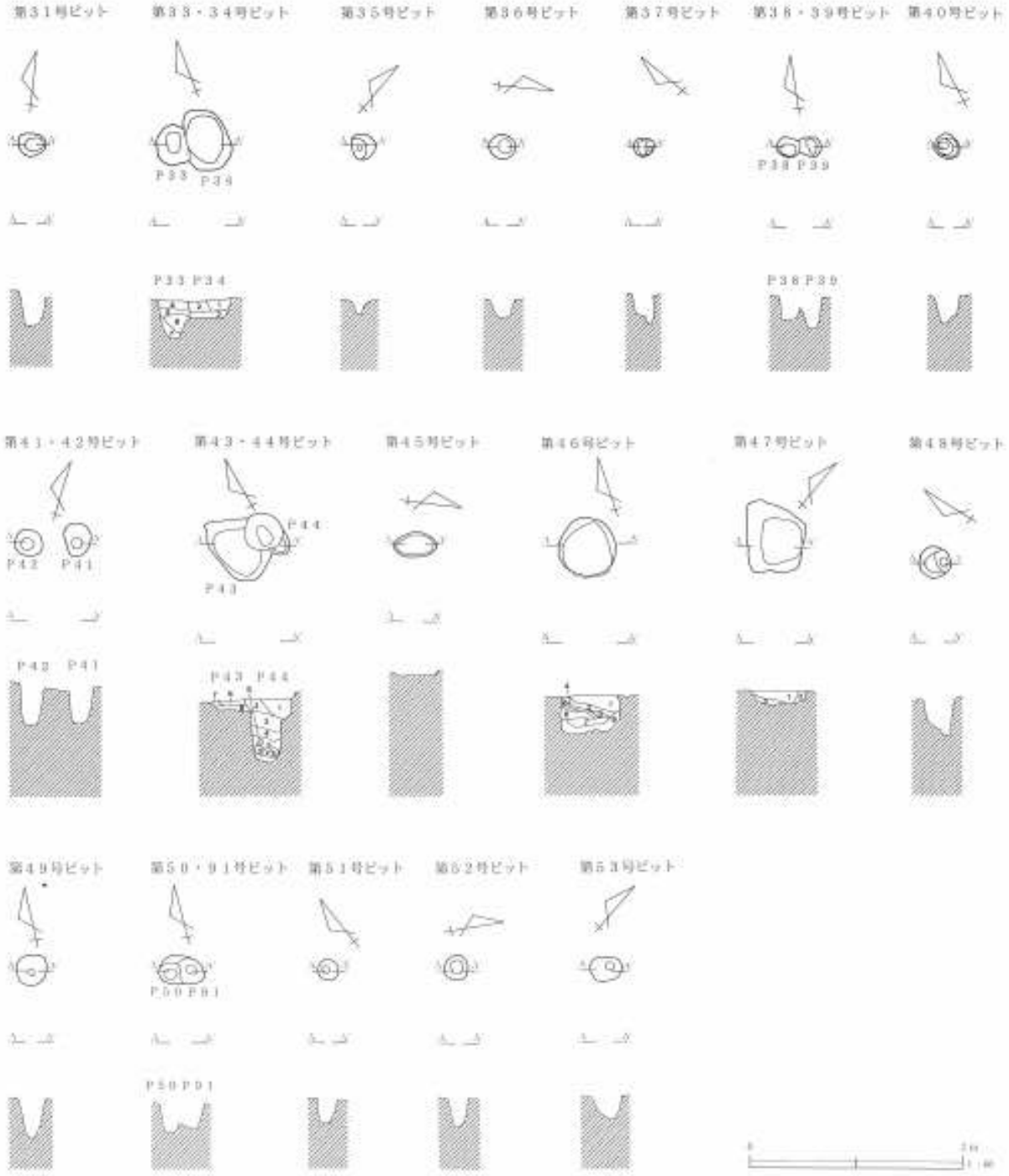
出土遺物は、少量の鉄滓が出土した。

第27号ピット（第９図）



第26号ピット
1 褐灰色土 10YR-4/1（にぶい黄色土 2.5Y-6/4 粒子少量、炭化物若干、礫含む）
2 黄灰色土 2.5Y-4/1（にぶい黄色土 2.5Y-6/4 ブロック多量、礫若干含む）
3 黒褐色土 2.5Y-3/1（にぶい黄色土 2.5Y-6/4 粒子少量、小さい礫含む）
第58号ピット
1 褐灰色土 10YR-4/1（にぶい黄色土 2.5Y-6/4 粒子少量、炭化物若干、礫含む）
2 にぶい黄色土 2.5Y-6/4
3 にぶい黄色土 2.5Y-6/4
4 黄灰色土 2.5Y-4/1（にぶい黄色土 2.5Y-6/4 粒子少量含む）
5 褐灰色土 10YR-5/1（にぶい黄色土 2.5Y-6/4 粒子若干含む）
6 黒褐色土 2.5Y-3/1（にぶい黄色土 2.5Y-6/4 粒子少量、炭化物若干含む）
7 黄褐色土 2.5Y-5/3（黒褐色土 2.5Y-3/1 若干混入）
第21号ピット
1 褐灰色土 10YR-4/1（にぶい黄色土 2.5Y-6/4 粒子多量、炭化物・焼土若干、小石多量に含む）
2 黒褐色土 10YR-3/1（にぶい黄色土 2.5Y-6/4 粒子、小石少量含む）
3 黒褐色土 2.5Y-3/1（にぶい黄色土 2.5Y-6/4 粒子、炭化物・焼土若干含む）
4 黒褐色土 10YR-3/1
5 黒色土 10Y-2/1【炭化物層】（にぶい黄色土 2.5Y-6/4 粒子ごくわずか、焼土含む）
6 灰色土 5Y-4/1（若干砂質で軟質、にぶい黄色土 2.5Y-6/4 粒子ごくわずか含む）
7 粘土
第22号ピット
1 黄灰色土 2.5Y-4/1（砂質、黄褐色土 2.5Y-5/3 粒子若干、炭化物・焼土、小石多量に含む）
2 暗灰黄色土 2.5Y-4/3
3 黒褐色土 2.5Y-3/1（黄褐色土 2.5Y-5/3 粒子若干、炭化物少量、小さい礫多量に含む）
4 オリーブ褐色砂質土 2.5Y-4/3
5 灰色土 5Y-4/1（黄褐色 2.5Y-5/3 帯びる、粘性、小石若干含む）
6 灰色土 5Y-4/1
7 灰オリーブ色土 5Y-4/2
8 オリーブ黒色土 5Y-3/1
第25号ピット
1 黒褐色土 2.5Y-3/1（砂質、鉄錆水滴に多く、炭化物・焼土含む）
2 黄灰色土 2.5Y-4/1（黄褐色土 2.5Y-5/4 若干、炭化物・焼土含む）
3 にぶい黄色土 2.5Y-6/4 ブロック
4 黄灰色土 2.5Y-4/1
第26号ピット
1 褐灰色土 10YR-4/1（にぶい黄色土 2.5Y-6/4 粒子少量、炭化物・焼土若干、小石多量に含む）
2 黄灰色土 2.5Y-4/1
3 オリーブ褐色土 2.5Y-4/3（褐灰色土 10YR-4/1 縁じる、小石若干含む）
4 オリーブ褐色土 2.5Y-4/3
5 明黄褐色土 2.5Y-6/2
6 オリーブ黒色土 5Y-3/1（炭化物若干含む）
7 オリーブ黒色土 7.5Y-3/1
8 第6層にほぼ同じ
9 オリーブ褐色土 2.5Y-4/3
10 第7層にほぼ同じ

第9図　第15～23・25～30・58号ピット



第33・34号ピット
1.暗赤褐色土 10YR-4/2（明黄褐色土粒子 2.5Y-6/8 多量、炭化物多量、焼土少量、火山灰ごくわずか含む）
2.褐色土 10YR-4/4（黒褐色土 10YR-3/2 ブロック多量含む）
3.黒褐色土 10YR-3/1（明黄褐色土 2.5Y-6/6 ブロック・粒子少量、炭化物含む）
4.明黄褐色土 2.5Y-6/8（黒褐色土 10YR-3/1 ブロック少量含む）
5.にぶい黄色土 2.5Y-6/4（若干赤味、黒褐色土 10YR-3/1 粒子少量含む）
6.明黄褐色土 2.5Y-6/8・黒褐色土 10YR-3/2 混合層
7.灰黄褐色土 10YR-4/2（赤味）
第43・44号ピット
1.黒褐色土 10YR-3/2（明黄褐色土 2.5Y-6/6 ブロック少量、炭化物・火山灰若干含む）
2.灰黄褐色土 10YR-4/2（明黄褐色土 2.5Y-6/6 ブロック多量に含む）
3.黒褐色土 10YR-3/1 ブロック・明黄褐色土 2.5Y-6/6 ブロック混合層
4.黒褐色土 7.5YR-3/1（明黄褐色土 2.5Y-6/6 ブロック多量に含む）
5.黒褐色土 7.5YR-3/1（明黄褐色土 2.5Y-6/6 ごくわずか混じる、礫含む）
6.黒褐色土 10YR-3/1（明黄褐色土 2.5Y-6/6 粒子若干、炭化物・火山灰ごくわずか含む）
7.黄褐色土 2.5Y-5/4
8.黒褐色土 10YR-3/1（明黄褐色土 2.5Y-6/6 ブロック若干含む）
第46号ピット
1.黒色土 7.5YR-2/1【炭化物層】（にぶい黄色土 2.5Y-6/4 ブロック多量、焼土少量含む）
2.オリーブ黒色土 5Y-3/1【炭化物層】（にぶい黄色土 2.5Y-6/4 粒子少量、焼土少量含む）
3.黄灰色土 2.5Y-4/1（にぶい黄色土 2.5Y-6/4 粒子少量含む）
4.黒色土 N-2【炭化物層】
5.第3層に類似し（炭化物・焼土若干含む）
6.黒色土 10Y-2/1【炭化物層】（にぶい黄色土 2.5Y-6/3 ブロック含む）
7.黄灰色土 2.5Y-4/1（にぶい黄色土 2.5Y-6/3 粒子・ブロック多量に含む）
8.黒褐色土 2.5Y-3/1（黄褐色土 2.5Y-5/4 ブロック・粒子少量含む）
第47号ピット
1.黒褐色土 10YR-3/2（明黄褐色土 2.5Y-6/6 粒子若干、炭化物若干、火山灰多量に含む）
2.黒褐色土 10YR-3/1 と明黄褐色土 2.5Y-6/6 ブロック多量混合層
3.黒褐色土 10YR-2/2（明黄褐色土 2.5Y-6/6 粒子少量、炭化物・火山灰若干含む）

第10図　第31・33～53・91号ピット

D－2グリッドから検出した。

平面プランは楕円形で、規模は、長軸30cm、短軸21cm、深さ13cmであった。断面形は、二段階の掘り込みであった。

出土遺物は、検出できなかった。

第37号ピット（第10図）

D－3グリッドから検出した。

平面プランはほぼ円形で、規模は、長軸18cm、短軸17cm、深さ27cmであった。断面形は、二段階の掘り込みであった。

出土遺物は、検出できなかった。

第44号ピット（第10図）

D－3グリッドから検出した。遺構は第43号ピットを壊していた。

平面プランは楕円形で、規模は、長軸48cm、短軸33cm、深さ60cmであった。断面形は、二段階の掘り込みであった。

出土遺物は、土師器坏破片が出土したが図示可能な遺物ではなかった。また、床面付近に礫が集中して出土した。

第46号ピット（第10図）

D－3グリッドから検出した。

平面プランは円形で、規模は、長軸55cm、短軸54cm、深さ37cmであった。断面形は、一部袋状であった。

出土遺物は、土師器坏破片が出土したが図示可能な遺物ではなかった。

時期は、古墳時代後期か。

第48号ピット（第10図）

D－3グリッドから検出した。

平面プランは円形で、規模は、長軸30cm、短軸29cm、深さ35cmであった。断面形は、二段階の掘り込みであった。

出土遺物は、検出できなかった。

第55号ピット（第11図）

D－3グリッドから検出した。

平面プランは楕円形で、規模は、長軸55cm、短軸45cm、深さ25cmであった。

出土遺物は、少量の鉄滓が出土した。

第60号ピット（第11図）

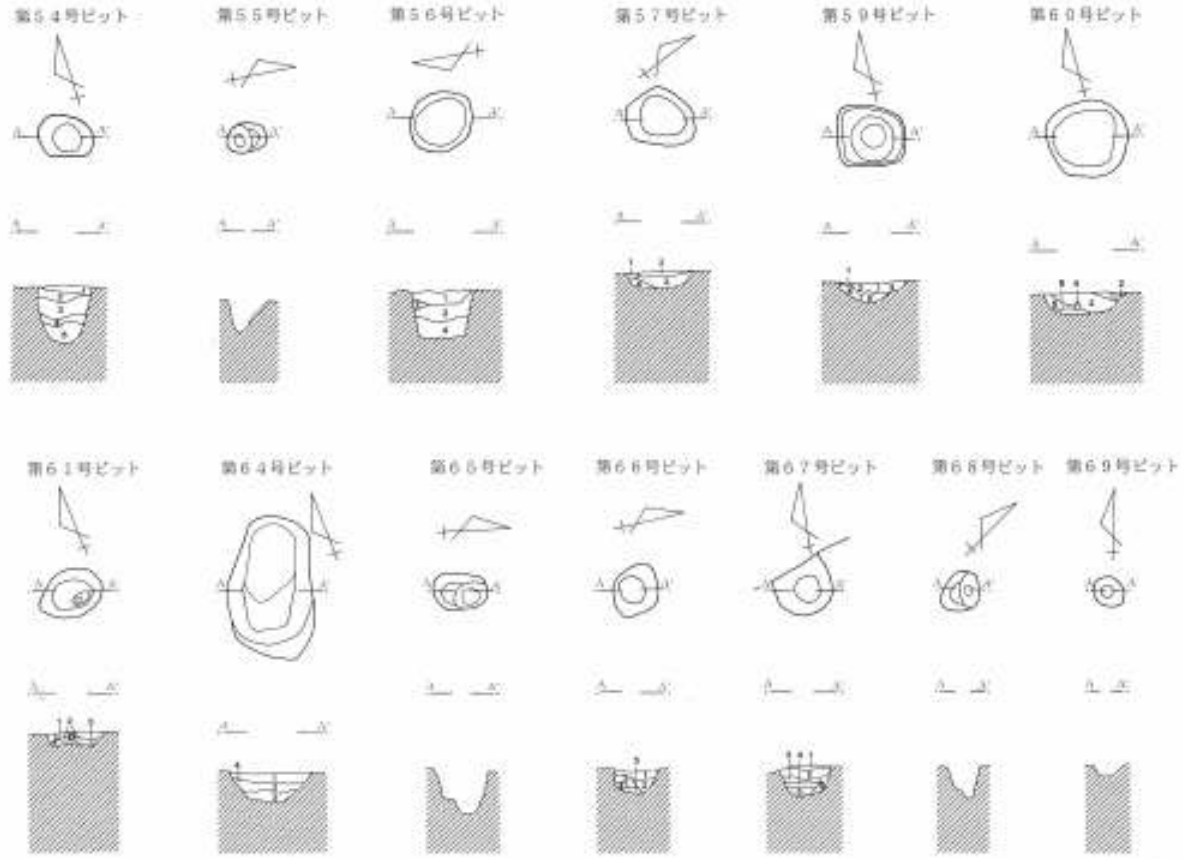
D－4グリッドから検出した。

平面プランはほぼ円形で、規模は、長軸65cm、短軸60cm、深さ16cmであった。

出土遺物は、少量の鉄滓が出土した。

第64号ピット（第11図）

D－5グリッドから検出した。

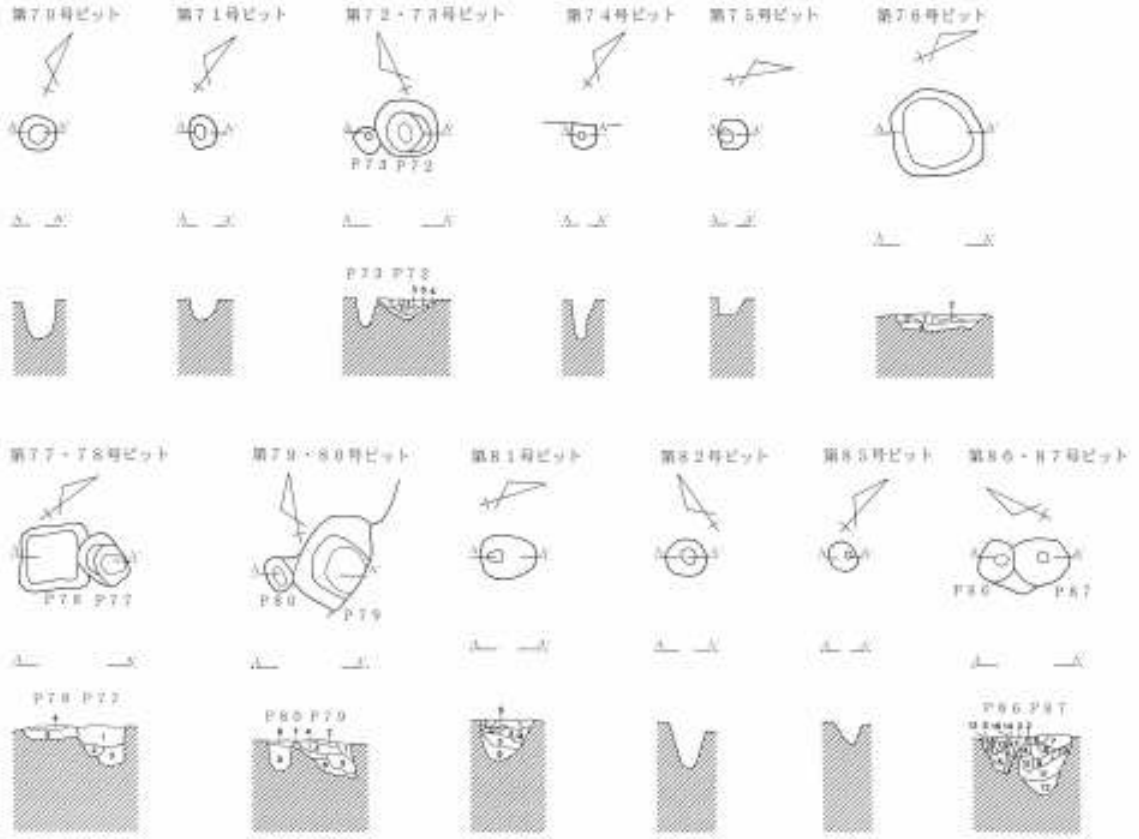


第５４号ピット
1 褐灰色土 10YR-4/1（明黄褐色土 10YR-3/6 粒子少量、炭化物ごくわずか含む）
2 黄灰色土 2.5Y-4/1（明黄褐色土 10YR-5/6 ブロック少量、炭化物ごくわずか含む）
3 黒褐色土 2.5Y-3/1（にぶい黄色土 2.5Y-6/4 粒子少量、炭化物若干含む）
4 黄灰色土 2.5Y-4/1（にぶい黄色土 2.5Y-6/4 小ブロック少量含む）
5 オリーブ黒色土 5Y-3/1（明茶褐色土 2.5Y-6/6 小ブロック若干含む）
第５６号ピット
1 暗灰黄色土 2.5Y-4/2（炭化物若干含む）
2 黄灰色土 2.5Y-4/1（明黄褐色土 2.5Y-4/6 粒子若干含む）
3 黒褐色土 2.5Y-3/2（炭化物ごくわずか含む）
4 黒褐色土 10YR-3/1（明黄褐色土 2.5Y-6/8 ブロック・粒子少量、炭化物若干含む）
第５７号ピット
1 灰オリーブ色土 5Y-4/2（オリーブ黄色土 5Y-6/4 粒子若干含む）
2 暗灰黄色土 2.5Y-4/2（オリーブ黄色土 5Y-6/4 粒子若干、Au層若干、焼土含む）
3 黒褐色土 10YR-3/1（オリーブ黄色土 5Y-6/4 粒子少量、炭化物若干含む）
4 オリーブ褐色土 2.5Y-4/6（黒褐色土 10YR-3/1 粒子若干含む）
第５９号ピット
1 オリーブ褐色土 2.5Y-4/3
2 黒褐色土 10YR-3/1（黄褐色土 2.5Y-5/3 ブロック若干、炭化物・焼土少量含む）
3 灰黄褐色土 10YR-4/2（黄褐色土 2.5Y-5/3 ブロック少量、炭化物若干含む）
4 黒褐色土 7.5YR-3/1（黄褐色土 2.5Y-5/3 粒子若干、炭化物若干含む）
5 黄褐色土 2.4Y-5/3 ブロック多量・黒褐色土 10YR-3/1 混合層
第６０号ピット
1 灰黄褐色土 10YR-4/2（炭化物・焼土多量、火山灰少量含む）
2 黄褐色土 2.5Y-5/3
3 黒褐色土 2.5Y-3/1（黄褐色土 2.5Y-5/3 粒子少量、炭化物・焼土少量、小石若干含む）
4 黄褐色土 2.5Y-5/3
5 オリーブ黒色土 5Y-3/2（黄褐色土 2.5Y-5/3 粒子、炭化物・焼土少量含む）
6 暗オリーブ色土 5Y-4/3（オリーブ黒色土 5Y-3/2 若干混入）

第６１号ピット
1 黄灰色土 2.5Y-4/1（にぶい黄色土 2.5Y-6/4 粒子少量、炭化物若干含む）
2 オリーブ黒色土 5Y-3/1（にぶい黄色土 2.5Y-6/4 小ブロック、礫含む）
3 灰色土 5Y-4/1
4 暗灰黄色土 2.5Y-4/2（黄灰色土 2.5Y-4/1 多量に含む）
5 撹乱
第６４号ピット
1 褐灰色土 10YR-4/1（にぶい黄色土 2.5Y-6/4 粒子多量、炭化物・焼土・礫若干含む）
2 黄灰色土 2.5Y-4/1（にぶい黄色土 2.5Y-6/4 混じる、炭化物ごくわずか含む）
3 にぶい黄褐色土 10YR-5/4（第２層土ブロック多量に含む）
第６６号ピット
1 褐灰色土 10YR-4/1（にぶい黄色土 2.5Y-6/4 粒子ごくわずか含む）
2 黄灰色土 2.5Y-4/1（にぶい黄色土 2.5Y-6/4 混じる）
3 黒褐色土 2.5Y-3/1
4 淡黄色赤管土 5Y-7/4
5 オリーブ黄色土 5Y-6/4（褐灰色土 10YR-4/1 ブロックごくわずか含む）
第６７号ピット
1 黒褐色土 2.5Y-3/1（明黄褐色土 2.5Y-7/6 粒子少量含む）
2 暗灰黄色土 2.5Y-4/2（黄褐色土 2.5Y-5/4 粒子多量に含む）
3 にぶい黄色土 2.5Y-6/3（黄灰色土 2.5Y-4/1 混じる）
4 明黄褐色土 2.5Y-6/6（黄灰色土 2.5Y-4/1 混じる）
5 にぶい黄色土 2.5Y-6/4（暗灰黄色土 2.5Y-5/2 混じる）
6 暗灰黄色土 2.5Y-4/2（明黄褐色土 2.5Y-7/6 ブロック含む）

0　2m

第 11 図　第 54 ～ 57・59 ～ 61・64 ～ 69 号ピット



第７２号ピット
1 褐灰色土 10YR-4/1（明黄褐色土 2.5Y-5/6 粒子若干、炭化物若干含む）
2 にぶい黄色土 2.5Y-6/4（褐灰色土 10YR-4/1 混じる）
3 オリーブ黄色土 5Y-6/3
4 オリーブ黄色土 5Y-6/3（褐灰色土 10YR-4/1 粒子少量含む）
5 灰オリーブ色土 5Y-6/2（灰白色 2.5Y-7/1 帯びる）
第７６号ピット
1 褐灰色土 10YR-4/1（明黄褐色土 2.5Y-6/6 粒子少量、炭化物ごくわずか、火山灰若干含む）
2 第３層に同じ
3 灰黄褐色土 10YR-4/2（明黄褐色土 2.5Y-6/6 粒子少量、黒褐色土 10YR-3/1 粒子ごくわずか含む）
4 黒褐色土 10YR-3/2（明黄褐色土 2.5Y-6/6 粒子少量、炭化物若干、火山灰ごくわずか含む）
第７７・７８号ピット
1 黒褐色土 10YR-3/1（明黄褐色土 2.5Y-6/6 ブロック・粒子少量、炭化物・焼土含む）
2 にぶい黄褐色土 10YR-5/4 ブロック／黒褐色土 10YR-3/1 混合層
3 黒褐色土 2.5Y-3/1（明黄褐色土 2.5Y-6/6 小ブロック・粒子若干含む）
4 褐灰色土 10YR-4/1（明黄褐色土 2.5Y-6/6 粒子若干、炭化物・焼土若干含む）
5 褐灰色土 10YR-4/1（明黄褐色土 2.5Y-6/6 ブロック・粒子多量に含む）
第７９・８０号ピット
1 黒褐色土 10YR-3/2（明黄褐色土 2.5Y-7/6 粒子ごくわずか含む）
2 黒褐色土 10YR-3/1（明黄褐色土 2.5Y-7/6 微粒子ごくわずか、炭化物含む）
3 灰黄褐色土 10YR-4/2（明黄褐色土 2.5Y-7/6 粒子多量、炭化物・焼土含む）
4 にぶい黄褐色土 10YR-4/3（明黄褐色土 2.5Y-7/6 微粒子若干、炭化物・焼土若干含む）
5 黒褐色土 2.5Y-3/2（明黄褐色土 2.5Y-7/6 粒子少量、炭化物・焼土若干含む）
6 オリーブ褐色土 2.5Y-4/3（明黄褐色土 2.5Y-7/6 粒子多量に含む）
7 褐灰黄色土 2.5Y-4/2（にぶい黄色土 2.5Y-6/4 粒子含む）
8 黒褐色土 10YR-3/1（明黄褐色土 2.5Y-7/6 粒子若干含む）
9 黒褐色土 2.5Y-3/1（明黄褐色土 2.5Y-7/6 微粒子少量、焼土含む）
第８１号ピット
1 褐灰黄色土 2.5Y-4/2（明黄褐色土 2.5Y-7/6 混じる、礫含む）
2 黒褐色土 2.5Y-3/1（炭化物・焼土ごくわずか含む）
3 黄灰色土 2.5Y-4/1（明黄褐色土 2.5Y-7/6 粒子少量、礫含む）
4 灰黄褐色土 10YR-4/2（明黄褐色土 2.5Y-7/6 粒子多量）
5 黒褐色土 10YR-3/2（明黄褐色土 2.5Y-7/6 粒子ごくわずか、炭化物・礫含む）
6 黒褐色土 2.5Y-3/2（明黄褐色土 2.5Y-7/6 粒子多量に含む）
第８６・８７号ピット
1 明黄褐色土 2.5Y-6/8（褐灰色土 10YR-4/1 混じる）
2 黄色砂質土 5Y-7/6
3 黄色砂質土 5Y-7/6
4 褐灰色土 10YR-4/1（明黄褐色土 2.5Y-6/6 小ブロック・粒子含む）
5 褐灰色土 10YR-4/1・明黄褐色土 2.5Y-6/6 混合層
6 黒褐色土 10YR-3/2（淡黄色土 5Y-7/4 粒子含む）
7 褐灰色土 10YR-4/1（明黄褐色土 2.5Y-6/6 粒子少量、炭化物・焼土含む）
8 黒褐色土 10YR-3/2
9 黒褐色土 10YR-3/1
10 黒褐色土 10YR-3/1（明黄褐色土 2.5Y-6/6 粒子少量、炭化物含む）
11 暗褐色土 10YR-3/3（明黄褐色土 2.5Y-6/6 粒子ごくわずか、炭化物含む）
12 黒褐色土 10YR-2/2
13 黒褐色土 10YR-3/2（明黄褐色土 2.5Y-6/6 粒子ごくわずか、礫含む）
14 褐灰色土 10YR-4/1（明黄褐色土 2.5Y-6/6 粒子少量）
15 明黄褐色土 2.5Y-6/6（褐灰色土 10YR-4/4 粒子少量含む）
16 黒褐色土 10YR-3/1

0　2m

第 12 図　第 70 ～ 82・85 ～ 87 号ピット

平面プランは長楕円形で、規模は、長軸112cm、短軸58cm、深さ25cmであった。

出土遺物は、少量の鉄滓が出土した。

第65号ピット（第11図）

E－2グリッドから検出した。

平面プランは楕円形で、規模は、長軸41cm、短軸29cm、深さ34cmであった。断面形は、二段階の掘り込みであった。

出土遺物は、検出できなかった。

第68号ピット（第11図）

E－2グリッドから検出した。

平面プランは不整形な楕円形で、規模は、長軸35cm、短軸28cm、深さ24cmであった。断面形は、二段階の掘り込みであった。

出土遺物は、検出できなかった。

第77号ピット（第12図）

E－2グリッドから検出した。遺構は第78号ピットを壊していた。

平面プランは楕円形で、規模は、長軸44cm、短軸34cm、深さ32cmであった。断面形は、二段階の掘り込みであった。

出土遺物は、少量の鉄滓が出土した。

第79号ピット（第12図）

E－2グリッドから検出した。遺構は砂の堆積層に壊されていた。

平面プランは隅丸方形状で、規模は、一方軸が78cm、深さ30cmであった。

出土遺物は、検出できなかった。

第81号ピット（第12図）

E－2グリッドから検出した。

平面プランは楕円形で、規模は、長軸47cm、短軸37cm、深さ33cmであった。

出土遺物は、羽口と考えられる破片と片岩が出土したが、図示可能な遺物ではなかった。

第89号ピット（第13図・第14図）

E－3グリッドから検出した。遺構は第90号ピットに壊されていた。

平面プランは円形で、規模は、長軸26cm、短軸25cm、深さ32cmであった。

出土遺物は、砥石状の石製品・少量の鉄滓が出土した。

第90号ピット（第13図）

E－3グリッドから検出した。遺構は第89号ピットを壊していた。

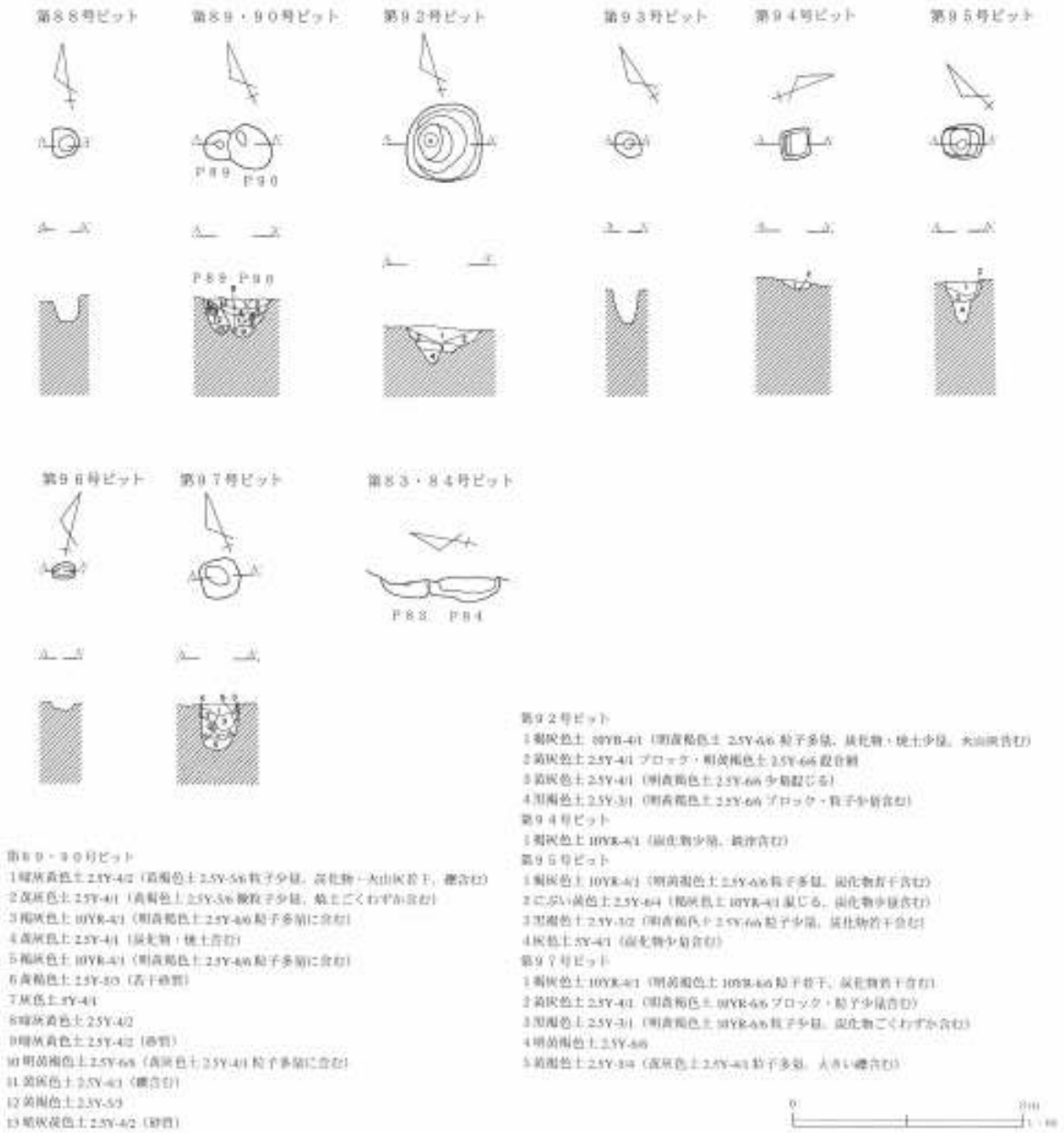
平面プランは楕円形で、規模は、長軸43cm、短軸35cm、深さ34cmであった。

出土遺物は、少量の鉄滓が出土した。

第92号ピット（第13図）

E－3グリッドから検出した。

平面プランは隅丸方形状で、規模は、長軸68cm、短軸66cm、深さ33cmであった。断面形は、二段階の



第13図　第83・84・88～90・92～97号ピット

掘り込みであった。

出土遺物は，検出できなかった。

第94号ピット（第13図）

E－4グリッドから検出した。

平面プランは正方形で，規模は，一辺25cm，深さ8cmであった。

出土遺物は，少量の鉄滓が出土した。

第95号ピット（第13図・第14図）

E－4グリッドから検出した。

平面プランは隅丸方形で，規模は，長軸36cm，短軸30cm，深さ37cmであった。断面形は，二段階の掘り込みであった。

出土遺物は、陶器の甕破片が出土した。

時期は、中世と考えられる。

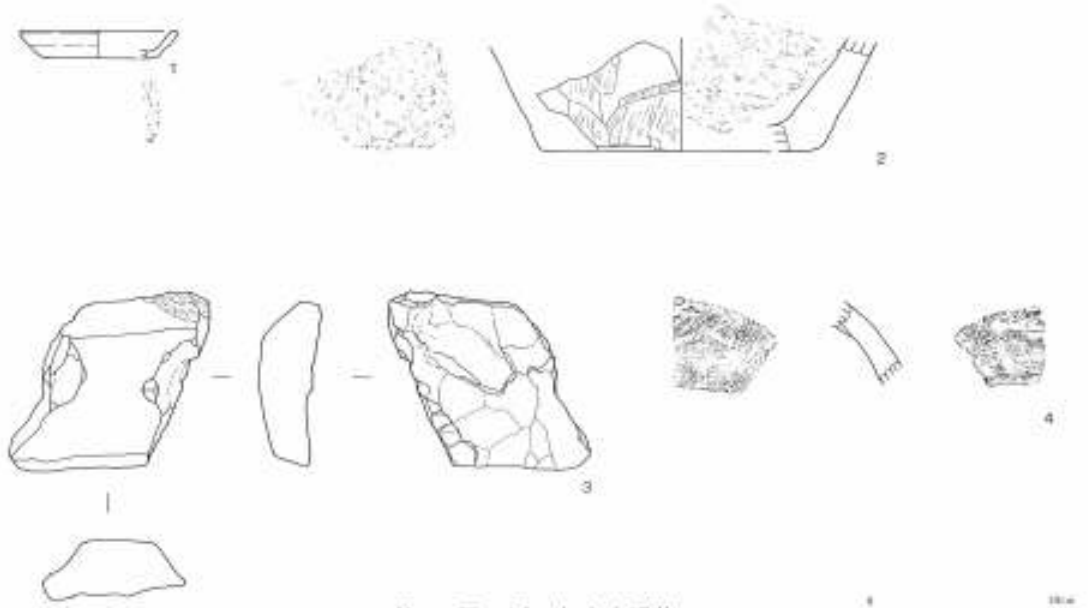
第97号ピット（第13図）

E－4グリッドから検出した。

平面プランは隅丸方形で、長軸34cm、短軸33cm、深さ41cmであった。

出土遺物は、土師質土器の破片・片岩等とともに大型礫が多量に出土したが、図示可能な遺物ではなかった。

時期は、中世と考えられる。



第14図　ピット出土遺物

第3表　ピット出土遺物観察表（第14図）

番号	出土位置	器種	法量(cm)	手法、形態の特徴	胎土	色調	焼成	残存率	備考
1	P 17	土師質土器皿	口径8.6 器高1.5	ロクロ成形、内外面ともロクロナデ。底部：回転糸切り？ 体部は外反してほぼ直線的に開く。	粗粒砂、中粒砂、細粒砂、赤褐色粒子多量、黒色粒子少量、雲母含む。	にぶい褐色7.5YR-7/4	良好	口縁部約10%	
2	P 10	甕	底径15.4 残存高6.0	外面：タテ及び斜め指ナデ。 内面：横位の指ナデ（ヘラケズリ状）。 底部：未調整。 体部は底部からほぼ直線的に立ち上がる。	細礫、粗粒砂、中粒砂、長石、白色粒子、小石含む。	外面：褐灰色10YR-5/1 一部ススける。 内面：灰赤色2.5YR-5/2	良好	底部の一部のみ	
3	P 89	石製品（砥石）	長さ9.6 幅7.7 厚さ2.9 重さ330g	2面平滑面があり、砥石の様なものであろうか。一方の平滑面には発泡化物質が付着する。平滑面とは直交方向に丸くうがった様な箇所が相対してある。 約半分が欠けている様である。 裏面及び丸くうがった箇所面が欠損。 石質、砂岩。					
4	P 95	甕	－	外面：押印文が施されている。刷毛状ナデ痕あり。 内面：ヨコナデ。 粘土紐のつぎ目痕あり。	中粒砂、長石、雲母含む。	外面：灰色N-4/ 内面：灰色N-5/	良好	胴部破片	

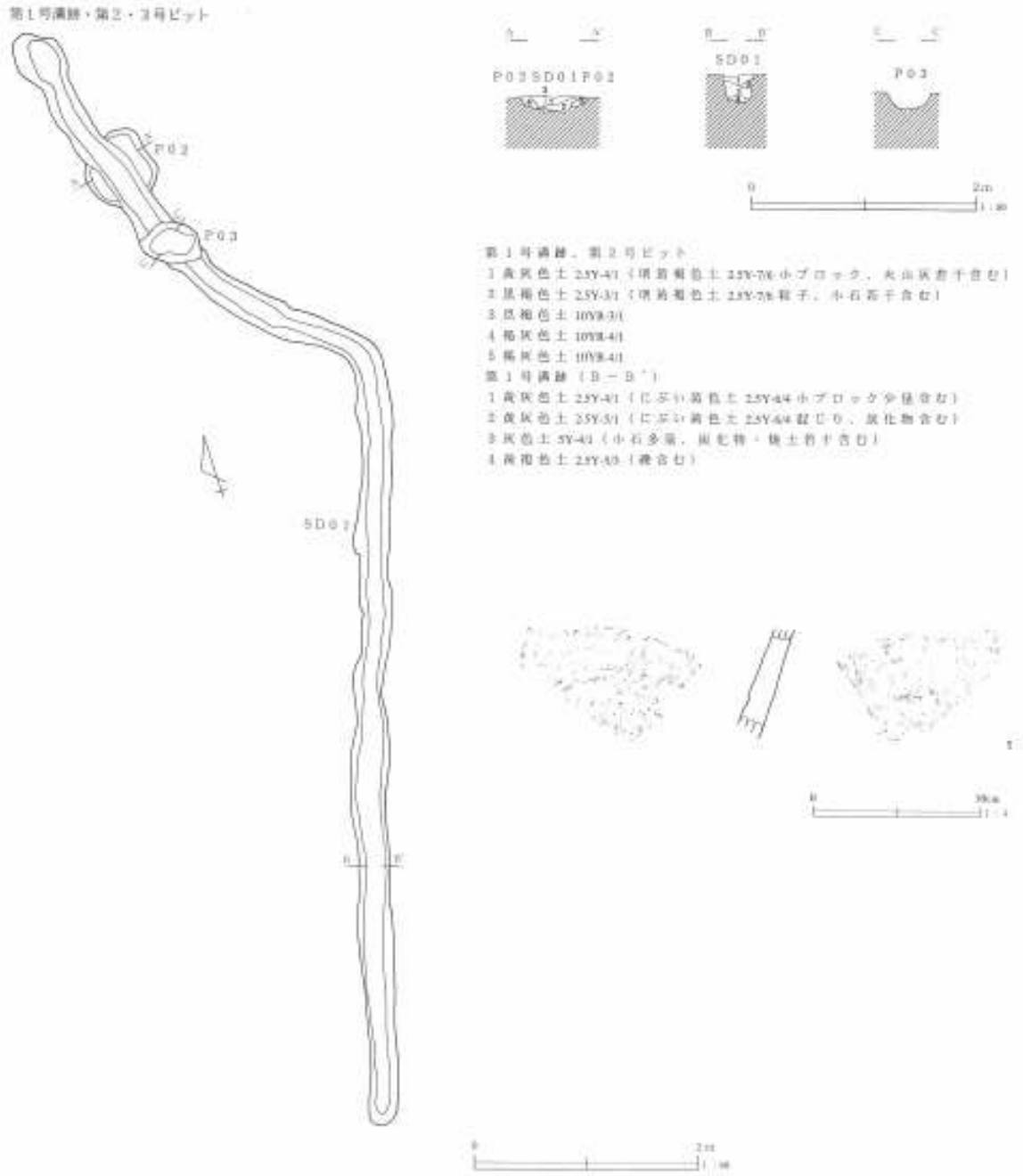
第4表　ピット一覧表（括弧付けは推定値）

番号	位置	プラン	長軸×短軸×深さ(cm)	出土遺物	時期	重複関係
1	B･C-2	楕円形	48 × 30 × 13			
2	B･C-2･3	不整形な円形	65 × 60 × 10			ＳＤ 01 に壊される
3	C-3	楕円形	53 × 37 × 15			ＳＤ 01 を壊す
4	B-3	楕円形	30 × 25 × 32	土師器破片		
5	B-3	円形に突出部	76 × 61 × 20			
6	B-3	円形	64 × 63 × 12			
7	B-4	隅丸方形状	67 × 59 × 17	土師器破片		
8	B-4	楕円形	－ × 55 × 15	鉄滓		Ｐ 09 に壊される
9	B-4	楕円形	57 × (36) × 16	土師器坏破片，鉄滓		Ｐ 08 を壊す
10	C-2	楕円形	58 × 49 × 60	鉢，鉄滓	中世	
11	C-2	円形	46 × 41 × 28			
12	C-3	円形	(35) × (35) × 8			Ｐ 13 に壊される
13	C-3	楕円形	42 × 32 × 42	土師質土器破片		Ｐ 12 を壊す
14	C-3	楕円形	23 × 18 × 6			
15	C-3	ほぼ円形	18 × 16 × 6			
16	C-3	楕円形	71 × 61 × 5			
17	C-3	不整形な楕円形	74 × 48 × 47	土師質土器，土師器破片，鉄滓，礫	中世	Ｐ 18 と重複関係
18	C-3	隅丸方形状	66 × 62 × 12			Ｐ 17 と重複関係
19	C･D-4	楕円形	67 × － × 16			
20	C･D-4	隅丸方形状	75 × 68 × 25			
21	C-4･5	円形	87 × 83 × 38			Ｐ 21 と重複関係
22	C-4	不整形な楕円形	52 × 32 × 43			Ｐ 22 と重複関係
23	C-5	円形	88 × 83 × 35	鉄滓		
24	C-5	円形？	(65) × (65) × 16			ＳＫ 01・ＳＫ 02・Ｐ 62 と重複関係

番号	位置	プラン	長軸×短軸×深さ (cm)	出土遺物	時期	重複関係
25	C-5	円形	52 × 47 × 15	鉄滓		
26	C-5	円形	78 × 77 × 30	鉄滓		
27	D-2	楕円形	30 × 21 × 13			
28	D-2	円形	21 × 19 × 6			
29	D-2	円形	23 × 20 × 19			
30	D-2	円形	23 × 21 × 31			
31	D-2	楕円形	24 × 22 × 34			
32	D-2	円形	36 × (36) × 67			S K 06 と重複関係
33	D-2・3	楕円形	38 × 28 × 37			P 34 に壊される
34	D-2・3	楕円形	60 × 42 × 18			P 33 を壊す
35	D-3	ほぼ円形	34 × 32 × 14			
36	D-3	ほぼ円形	26 × 23 × 18			
37	D-3	ほぼ円形	18 × 17 × 27			
38	D-3	楕円形	22 × 19 × 23			P 39 と重複関係
39	D-3	楕円形	22 × 18 × 30			P 38 と重複関係
40	D-3	楕円形	26 × 22 × 26			
41	D-3	楕円形	32 × 26 × 35			
42	D-3	ほぼ円形	27 × 24 × 39			
43	D-3	不整形	69 × － × 11			P 44 に壊される
44	D-3	楕円形	48 × 33 × 60	土師器坏破片		P 43 を壊す
45	D-3	楕円形	40 × 23 × 4			
46	D-3	円形	55 × 54 × 37	土師器坏破片	古墳後？	
47	D-3	不整形な方形状	62 × 55 × 14			
48	D-3	円形	30 × 29 × 35			
49	D-3	ほぼ円形	30 × 25 × 38			

番号	位置	プラン	長軸×短軸×深さ(cm)	出土遺物	時期	重複関係
50	D・E-3	楕円形	26 × 20 × 26			P 91 と重複関係
51	D-3	円形	20 × 19 × 24			
52	D-3	円形	25 × 21 × 26			
53	D-3	楕円形	33 × 23 × 22			
54	D-3	楕円形	45 × 32 × 45			
55	D-3	楕円形	55 × 45 × 25	鉄滓		
56	D-3・4	ほぼ円形	79 × 74 × 38			
57	D-4	不整形な楕円形	53 × 46 × 14			
58	C・D-4	不整形な円形	80 × 75 × 24			
59	D-4	隅丸方形状	53 × 47 × 16			
60	D-4	ほぼ円形	65 × 60 × 16	鉄滓		
61	D-4	楕円形	52 × 38 × 11			
62	C・D-5	円形？	－ × － × 19			P 63 と重複関係
63	D-4・5	円形	46 × 45 × 40			P 62 と重複関係
64	D-5	長楕円形	112 × 58 × 25	鉄滓		
65	E-2	楕円形	41 × 29 × 34			
66	E-2	ほぼ円形	40 × 35 × 18			
67	E-2	円形？	－ × 46 × 25			
68	E-2	不整形な楕円形	35 × 28 × 24			
69	E-2	ほぼ円形	24 × 23 × 9			
70	E-2	円形	30 × 27 × 30			
71	E-2	楕円形	27 × 22 × 17			
72	E-2	楕円形	53 × 45 × 15			P 73 に壊される
73	E-2	円形	23 × 19 × 23			P 72 を壊す
74	E-2	円形	－ × 22 × 33			

番号	位置	プラン	長軸×短軸×深さ(cm)	出土遺物	時期	重複関係
75	E-2	ほぼ円形	26 × 23 × 14			
76	E-2	隅丸方形状の円形	72 × 70 × 14			
77	E-2	楕円形	44 × 34 × 32	鉄滓		P 78 を壊す
78	E-2	方形	56 × 52 × 12			P 77 に壊される
79	E-2	隅丸方形状	78 × － × 30			
80	E-2	楕円形	28 × 21 × 25			
81	E-2	楕円形	47 × 37 × 33	羽口破片？，片岩		
82	E-2	円形	32 × 30 × 36			
83	E-3	長楕円形	(42) × － × －			P 84 と重複関係
84	E-3	長楕円形	(63) × － × －			P 83 と重複関係
85	E-3	ほぼ円形	26 × 21 × 17			
86	E-3	楕円形	34 × 28 × 29			P 87 に壊される
87	E-3	楕円形	48 × 38 × 49			P 86 を壊す
88	E-3	ほぼ円形	26 × 24 × 22			
89	E-3	円形	26 × 25 × 32	石製品（砥石）、鉄滓		P 90 に壊される
90	E-3	楕円形	43 × 35 × 34	鉄滓		P 89 を壊す
91	E-3	円形	28 × 26 × 25			P 50 と重複関係
92	E-3	隅丸方形状	68 × 66 × 33			
93	E-3	楕円形	26 × 21 × 28			
94	E-4	正方形	25 × 25 × 8	鉄滓		
95	E-4	隅丸方形状	36 × 30 × 37	瓦破片	中世	
96	E-4	楕円形	20 × 14 × 6			
97	E-4	隅丸方形状	34 × 33 × 41	土師質土器破片，片岩，大型礫多量	中世	



第15図　第1号溝跡、第2・3号ピットと出土遺物

3　溝跡

溝跡は、調査区北西部で1条検出したにとどまった。溝跡の北側は不明で、表土除去の際の削平によって失われてしまった可能性も考えられる。また、南側に関しても、遺構確認面が砂礫混じりの層で確認がきわめて困難だったため、図の示すところまでの検出に止まっている可能性も否めない。

第1号溝跡（第15図）

B・C－2・3・4グリッドから検出した。B－2グリッドから始まりB－3グリッドの中央へ向かって延び、B－3グリッド中央手前で屈曲して南南西に向かって延び、第8・9号ピットの真東で止まっていた。遺構は第2号ピットを壊している。また第3号ピットとも重複関係にあるが、新旧関係は明

らかにできなかった。

規模は，全長11m，幅25～30cm，深さ16～23cmであった。断面形状は，箱形ないしは不整形な逆台形であった。

覆土中には，砂や礫が含まれおり，地山である砂礫混じりの層で止まっていた。

出土遺物はほとんどなく，常滑産と思われる甕の破片が１点出土しただけである。

時期は，遺物からおそらく中世と考えられる。

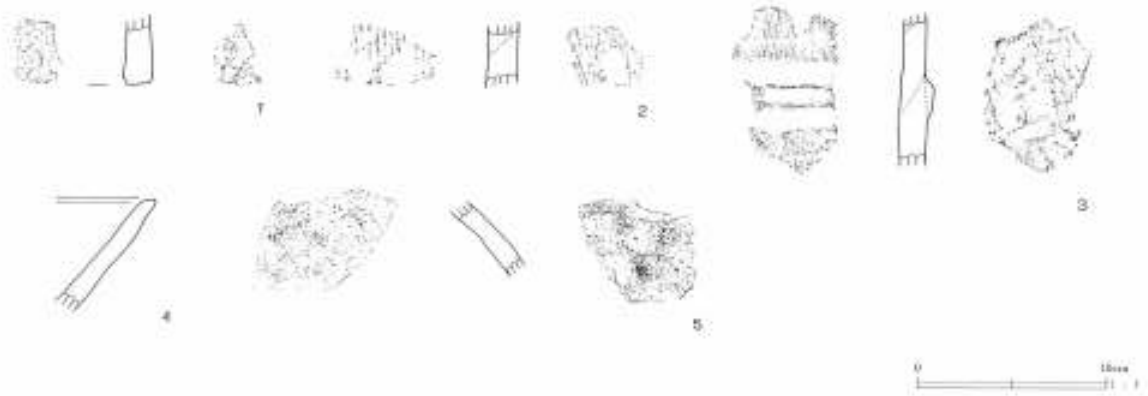
第５表　第１号溝跡出土遺物観察表（第 15 図）

番号	器種	法量(cm)	手法，形態の特徴	胎土	色調	焼成	残存率	備考
1	甕	－	粘土紐のつぎ目痕あり。	粗粒砂，中粒砂，白色粒子，黒色粒子，長石含む。	外面：にぶい赤褐色 5YR-5/3 内面：灰褐色 5YR-4/2	良好	破片	常滑産？

4　表土剥ぎ一括遺物

重機による表土除去の際に出土した遺物を掲載する。

近隣に点在する別府古墳群のものと考えられる円筒埴輪の破片及び中世の所産と考えられる陶器の破片資料である（第16図）。埴輪は少なくとも２種類のものが出土し，陶器は本遺跡の遺構の時期と一致するものと考える。



第 16 図　表土剥ぎ一括遺物

第６表　表土剥ぎ一括遺物観察表（第 16 図）

1）円筒埴輪

番号	外面調整（本/2cm）	内面調整（本/2cm）	胎土	色調	焼成	備考
1	一次のみタテハケ 12～14	指ナデ。	粗粒砂，中粒砂，白色粒子多量，長石，雲母含む。	明赤褐色 5YR-5/6	普通	底部に小石痕あり。 底部破片。
2	一次のみタテハケ 6。	一部タテハケ 8。 他はナデ？	粗粒砂，中粒砂，白色粒子，黒色粒子，雲母含む。	明赤褐色 2.5YR-5/6	普通	

番号	外面調整（本/2cm）	内面調整（本/2cm）	胎　土	色　調	焼成	備　考
3	一次のみタテハケ 11。 突帯部はヨコ指ナデ。	一部に右傾斜ハケ 10。 他は指ナデ？	細礫，粗粒砂，細粒砂，赤褐色粒子，長石粒子，角礫含む。	にぶい橙色 7.5YR-7/4	良好	突帯は台形。 スカシ穴部若干残存。

2）土器

番号	器　種	法量（cm）	手法，形態の特徴	胎　土	色　調	焼成	残存率	備　考
4	土鍋	残存高 6.1	内外面ともヨコナデ。 深くなる器形で口縁部が外傾するもの。口縁端部は角張り，斜めで比較的シャープなつくり。	細粒砂主体，中粒砂，粗粒砂，白色粒子，黒色粒子，長石含む。	灰白色 2.5Y-7/1	良好	口縁の一部	
5	甕	－	内面ヨコナデ。 内面に濃緑色釉がかかる。	細礫，粗粒砂，中粒砂，長石多量，黒色粒子含む。	外面：暗褐色 7.5YR-3/3 内面：褐色 7.5YR-4/3	良好	破片	常滑産

V　調査のまとめ

本遺跡は、少なからず遺構内から出土した中世の所産と考えられる陶器の破片から判断し、当該期の遺跡と判断した。しかし、絶対的な遺物の少なさと、遺構の不明瞭な性格から前述の通り判断して良いものか不安も隠せない。しかし、土坑はともかく、ピットの貧弱さから遺物の時期とさほど遠くはない時期、すなわち中世という時期でおそらく良いものと判断できるであろう。一方，遺跡自体の性格はというと、どういうものか決め手に欠け判断に苦しむところである。そこで、本遺跡の周囲に所在する同時期，中世という時代の遺跡を概観し、本遺跡の実態に少しでも迫れればと考え，筆を進めることにする。

本遺跡の近辺には、いわゆる中世武士団の城館跡が点在する。別府城跡，別府氏館跡，玉井陣屋跡，奈良氏館跡，西別府館跡等である。平安時代末熊谷地方では、熊谷氏をはじめ、武蔵七党の横山党に属す武士団がでてくる。この横山党には，別府・玉井・成田・中条氏などがあり、これらの武士の本拠地であったとされる地域すなわち本遺跡の周辺に前述のような居館跡と伝えられる遺跡が所在する。大里郡熊谷郷は熊谷次郎直実，そして当地域の幡羅別府が別府氏、幡羅玉井が玉井氏の本拠地である。これらの武士たちは、いずれも源平争乱期に活躍し、『吾妻鏡』に記録され、『平家物語』巻九の「老馬」（別府小太郎清重），「一二之懸」・「敦盛」（熊谷次郎直実），「落足」（玉井四郎資景）などが良く知られている。

それでは、各居館について順を追って見ていきたいと思う。別府城跡は土塁の一部及び空堀を良く残している。別府氏の居館と伝えられ、異説もあるが別府氏の祖である別府二郎行隆から十二代長清までの数代の別府氏の居館であったという。また、隣接する別府氏館跡は、中廓という地名や別府小太郎忠澄（清重）が父義重の追福のため開基したという香林寺が所在することなどから、別府氏一族の居館跡と考えられている。そして、西別府に所在する西別府館跡は、土塁の一部を残し平安時代末期の築造で、

行隆の長子太郎義行の弟、別府二郎行助から頼重まで居を構えていたものである。玉井陣屋跡は、平安時代末期以来玉井氏の居館と伝えられている。玉井氏は保元の乱、平家追討、承久の変などで活動し、丹波国内の地頭職を得たという。この玉井氏の祖は成田系図では、成田助高の子助実が玉井四郎と称し祖となったとあり、横山党系図では横山資孝の子資遠が玉井野七と号し、幡羅郡玉井村に住し玉井氏を称したと二説がある。また、奈良氏館跡は平安時代の築造で奈良三郎の館と伝えられている。この奈良三郎は、成田系図によると成田助高の三男三郎高長が奈良に来住し奈良氏と名のったとあり、また横山党系図では成田氏の祖成任の弟三郎のその弟奈良四郎が奈良氏の祖となり奈良村に住んだとある。いずれの館跡も本遺跡のごく近くに所在し、最も近い玉井陣屋跡は300m、別府氏館跡・別府城跡は500～600m、奈良氏館跡は800m、最も遠くて西別府館跡の1600mの距離である。本遺跡は、周辺のこのような歴史的環境下にある。ここで、こういった中世における歴史的環境において本遺跡の位置付けまたは性格はどうであったか考えてみたいと思う。

本遺跡で最も目を引く遺構・遺物は、井戸状の第1号土坑と隣接して存在する第2号土坑、さらにこれらの遺構から炭化物・焼土とともに出土した多量の鉄滓である。鉄滓とは製鉄遺跡で精錬及び鍛錬の際に排出される鉄のくず（残滓）であるが、非常に多いとは言えないにしろ比較的多くの鉄滓が出土したのには意味があると考える。そこで1つの試論を述べてみたいと思う。仮にこの地が精錬鍛冶ないしは鍛錬鍛冶の工房（またはそれに近い場所）であったとするとどうであろう。この地で中世の武士たちの武器・武具の修復、もしくは農耕鉄器の製造が行われていて、前述の武士たちのため、さらにはその配下の領民たちのために供給されていたと考える。武器・武具は勿論だが彼らの生活を支える農耕のための鉄器の製造は不可欠なものであったに違いない。鉄の生産形態は、古代においては鉱山（鉄穴）と共に国家が管理してたが、平安時代から中世末にかけての鉄の生産は自家消費的色彩が濃く、流通は従的であった。そして、近世以降は流通を前提とした鉄生産（作業体制の分業化）に変化していったと言われている。このことからも中世武士団のお抱え・自家的生産体制下の工房と本遺跡を考えると興味深い。本遺跡が鍛冶遺跡ということを裏付ける証拠は極めて少ないが、鉄滓の存在の他に、土坑とともに検出されたピット群の出土遺物に羽口の破片らしきものと、おそらく鉄器の研磨に使用されたと考えられる砥石状石製品が含まれていたということが挙げられる。特に砥石状石製品は、表面の一部に熱を受けてガラス発泡化した物質が付着していた。これらは絶対的証拠とはならなくても、傍証的証拠の要素と成り得るものではないかと考える。また、常滑産の甕をはじめとする陶器破片の出土も、ごくわずかな量であったが、この場で何らかの人々の行いがあったことを裏付けるものであると考える。しかし、一方で中世の製鉄遺跡の例が少ないという現実もあり、流通の面から集約的生産がなされていた可能性があると考えられていることも付け加えておきたい。

以上がかなり強引だが1つの試論である。周囲の歴史的環境から前述のようなことがあったとしたら今回の調査結果も興味深いものとなるであろう。ただし、何度もいうがこれは少ない事実結果をかなり想像たくましく見たものであり、非常に心許ないといわざるを得ない。今後このような事象をどう捉えて歴史の復元をしていくか、今後の調査による情報提供に負うところが大きい。まずは問題提起という範疇で捉えてほしい。また、現状では調査結果を十分に活用することもできないままであることは残念に思うところである。さらに情報の集積をして再考したいと考える。

引用・参考文献

『熊谷市史』前編　熊谷市　1963

『新編　埼玉県史』資料編１　1980

『新編　埼玉県史』資料編２　1982

『新編　埼玉県史』資料編３　1984

大里郡市文化財担当者会「大里地域の遺跡Ⅰ」『埼玉考古』第29号 埼玉考古学会 1992

小久保徹他『三尻天王・三尻林（１）』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第23集 （財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団　1983

高山清司「三ヶ尻上古遺跡」『埼玉県土器集成』４　埼玉考古学会　1976

金子正之「横間栗遺跡（２次）」『埼玉県埋蔵文化財調査年報』昭和62年度 埼玉県教育委員会　1990

金子正之「熊谷市横間栗遺跡の調査（第２次）」『第29回遺跡発掘調査報告会発表要旨』埼玉考古学会他 1988

木戸春夫『根絡・横間栗・関下』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第153集 （財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団　1995

中島　宏他『池守・池上』　埼玉県教育委員会　1984

鈴木孝之『北島遺跡』Ⅳ 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第195集 （財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団　1998

吉田　稔他『小敷田遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第95集 （財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団　1991

滝瀬芳之他『上敷免遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第128集 （財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団　1993

田中広明『新屋敷東・本郷前東』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第111集 （財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団　1992

岩瀬　譲『前・居立』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第151集 （財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1995

磯崎　一『新田裏・明戸東・原遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第85集 （財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団　1989

大屋道則『清水上遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第152集 （財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団　1994

田部井功『弥藤吾新田遺跡』埼玉県遺跡調査会報告第29集 埼玉県遺跡調査会　1976

寺社下博他『中条条里遺跡調査報告書Ⅰ』熊谷市教育委員会　1979

寺社下博他『天神遺跡』　熊谷市教育委員会　1988

寺社下博『中条遺跡群Ⅲ 権現山古墳・常光院東遺跡』　熊谷市教育委員会 1982

滝瀬芳之『東川端遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第94集 （財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団　1990

増田逸郎他『横塚山古墳』　埼玉県遺跡調査会　1971

山川守男『城北遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第150集 (財) 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1995
剱持和夫『ウツギ内・砂田・柳町』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第126集 (財) 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1993
寺社下博『天神下・土用ヶ谷戸遺跡』熊谷市教育委員会 1984
寺社下博「三尻中学校遺跡」『埼玉県埋蔵文化財調査年報』昭和55年度 埼玉県教育委員会 1982
金子正之『三尻遺跡群 黒沢館・樋ノ上遺跡』熊谷市教育委員会 1985
小川良祐他『樋の上遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第59集 (財) 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1986
坂野和信他『樋の上／皇山』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第205集 (財) 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1998
金子正之『三尻遺跡群 上辻・下辻遺跡』熊谷市教育委員会 1982
金子正之『三尻遺跡群 上辻・下辻遺跡』熊谷市教育委員会 1984
中村倉司『下辻遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第69集 (財) 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1987
川口 潤『本郷前東遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第78集 (財) 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1989
利根川章彦他『新ヶ谷戸』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第9集 (財) 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1982
権田宜行『天神前遺跡』熊谷市教育委員会 1992
寺社下博「熊谷市籠原裏遺跡の調査」『第20回遺跡発掘調査報告会発表要旨』埼玉考古学会他 1987
『埼玉県古代寺院調査報告書』埼玉県県史編さん室 1982
昼間孝志他「北武蔵における古瓦の基礎的研究Ⅰ」『研究紀要』 (財) 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1986
吉野 健『西別府廃寺(第2次)』熊谷市教育委員会 1994
大場磐雄・小沢國平「新発見の祭祀遺跡」『史跡と美術』第338号 1963
富田和夫『在家遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第220集 (財) 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1998
浅野晴樹『北島遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第81集 (財) 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1989
中村倉司『北島遺跡』Ⅱ 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第88集 (財) 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1989
大谷 徹『北島遺跡』Ⅲ 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第103集 (財) 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1991
『埼玉の館城跡』埼玉県教育委員会 1968
『埼玉の中世城館跡』埼玉県教育委員会 1988

金子正之『三尻遺跡群　若松遺跡・黒沢遺跡・東遺跡』熊谷市教育委員会　1986
金子正之『三尻遺跡群　社裏遺跡・社裏北遺跡・社裏南遺跡』熊谷市教育委員会　1986
吉野　健『西方遺跡』熊谷市教育委員会　1989
『概説　中世の土器・陶磁器』中世土器研究会編　真陽社　1995
『中世の熊谷の武士たち』熊谷市立図書館　1998

写 真 図 版

稲荷東遺跡　西側全景（北東から）

稲荷東遺跡　東側全景（北東から）

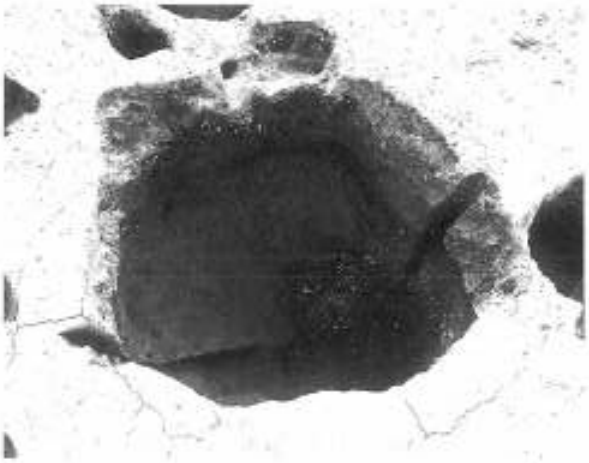
稲荷東遺跡　西側遺構（南東から）

稲荷東遺跡　東側遺構（南西から）

稲荷東遺跡　東側遺構（北から）

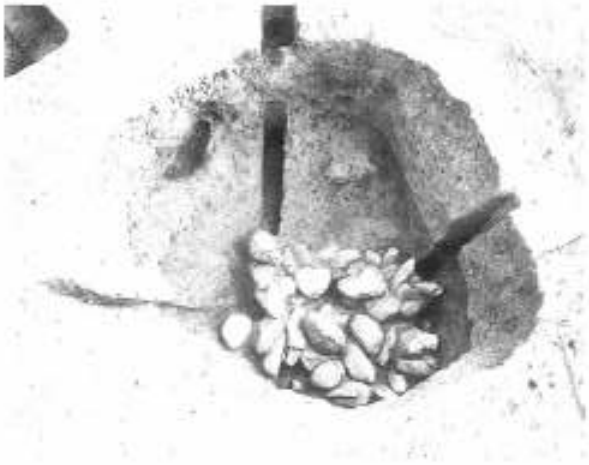
稲荷東遺跡　東南側遺構（西から）

図版 2

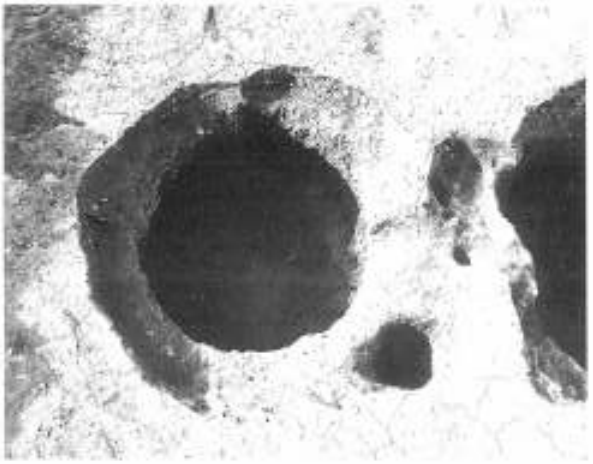


第 1 号土坑

第 1 号土坑　土層断面（A－A′）



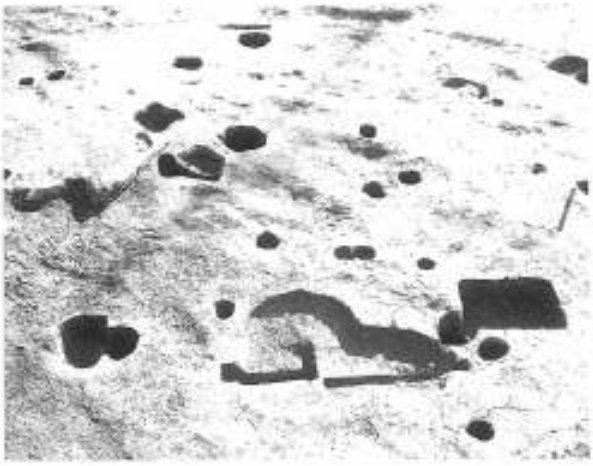
第 1 号土坑　集石状況



第 2 号土坑、第24・62・63号ピット

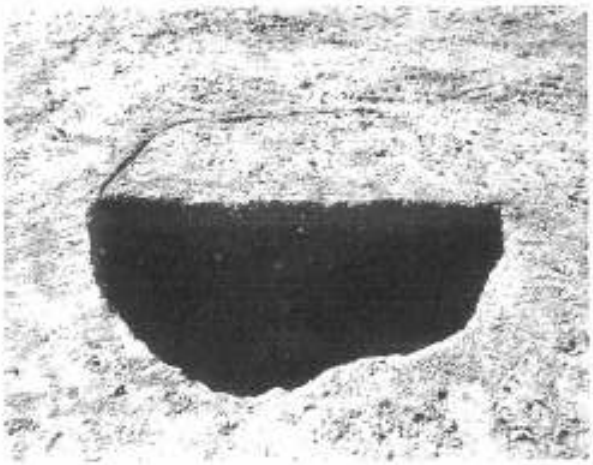
第 3 号土坑、第19・20・57~61・64号ピット

第 7 号土坑　片岩出土状況

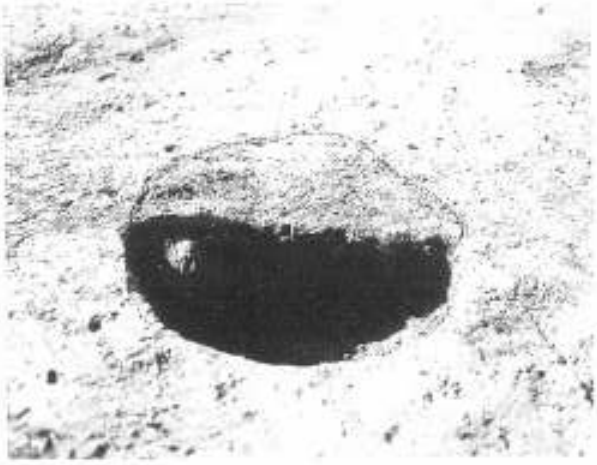


第４～６号土坑、第14～16・30～34・36～47・52～56号ピット

第17・18号ピット

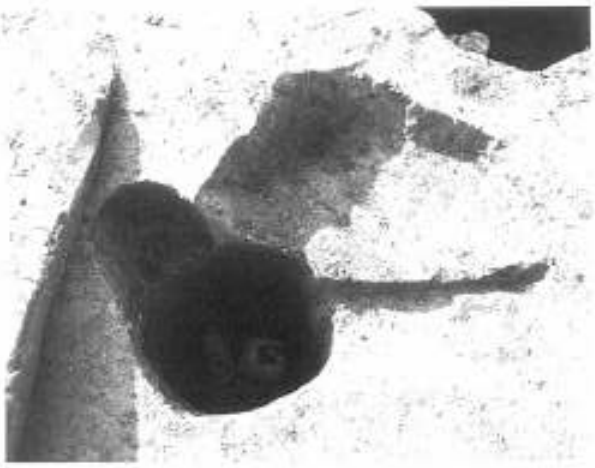


第23号ピット



第25号ピット

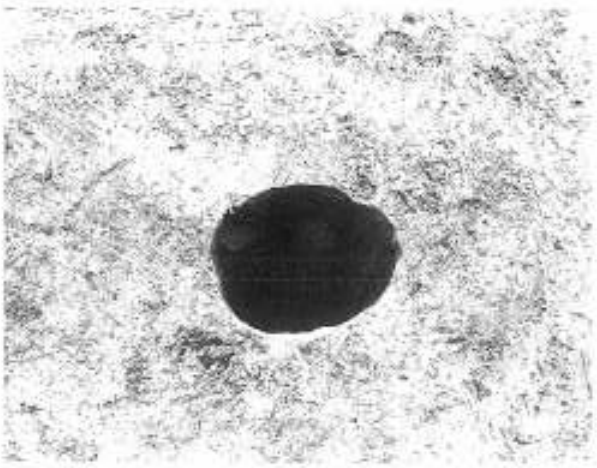
第26号ピット



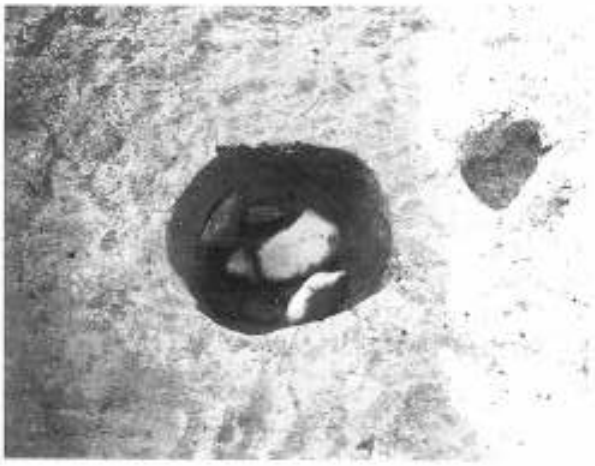
第43・44号ピット

図版４

第46号ピット



第93号ピット



第97号ピット

第１号溝跡（北から）

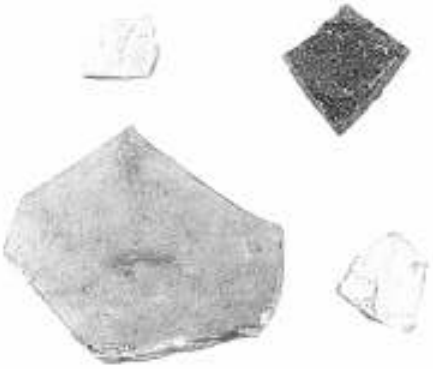
第１号溝跡（南から）

作業風景

第１号土坑（表）第７図－３

第１号土坑（裏）第７図－３

第１号土坑(表) 第７図－１　第３号土坑(表) 第７図－４
－２　第２号土坑(表)　　－５



第１号土坑(裏) 第７図－１　第３号土坑(裏) 第７図－４
－２　第２号土坑(裏)　　－５

第17号ピット(表) 第14図－１　第95号ピット(表) 第14図－４
第10号ピット(表) 第14図－２

第17号ピット(裏) 第14図－１　第95号ピット(裏) 第14図－４
第10号ピット(裏) 第14図－２

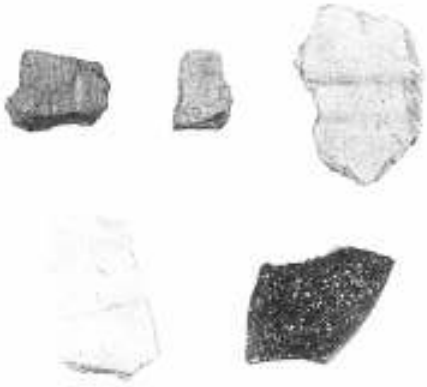
図版 6

第89号ピット（表）第14図－3

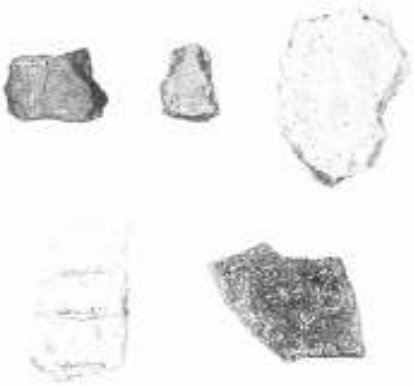
第89号ピット（裏）第14図－3

第１号溝跡（表）第15図－１

第１号溝跡（裏）第15図－１



表土剥ぎ一括遺物（表）第16図－2、－1、－3
－4、－5



表土剥ぎ一括遺物（裏）第16図－2、－1、－3
－4、－5

報告書抄録

ふりがな	いなりひがしいせき
書名	稲荷東遺跡
副書名	平成10年度熊谷市埋蔵文化財調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	吉野　健
編集機関	埼玉県熊谷市教育委員会
所在地	〒360-8601 埼玉県熊谷市宮町二丁目47番地1　TEL 0485-24-1111
発行年月日	西暦1999（平成11）年3月31日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯（°′″）	東経（°′″）	調査期間	調査面積（㎡）	調査原因
稲荷東遺跡（いなりひがしいせき）	埼玉県熊谷市大字東別府（さいたまけんくまがやしおおあざひがしべっぷ） 字稲荷東1032番1他（あざいなりひがし　ほか）	11202	113	36°10′52″	139°21′13″	19971211 ～ 19980131	200	河川改修工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
稲荷東遺跡	集落跡	中世	土坑　7基 ピット　97基 溝跡　1条	土師質土器 陶器 石製品 鉄滓	

平成10年度熊谷市埋蔵文化財調査報告書
稲荷東遺跡
平成11年3月31日発行
発　行／埼玉県熊谷市教育委員会
印　刷／株式会社　博　文　社

さくらのまち"熱谷"